

平成21年

彦根市子ども議会会議録

2月
(2月14日)

彦根市議会

平成 2 1 年 2 月

彦根市子ども議会会議録総目次

2月14日(土)

議事日程	1
本日の会議に付した事件	1
会議に出席した議員	1
会議に欠席した議員	1
議場に出席した事務局職員	1
会議に出席した説明員	2
開会	3
開議	3
会議録署名議員の指名(15番 馬場雄大さん)	3
会期の決定	3
彦根市政について(一般質問)	3
15番 馬場雄大さん 質問	3
楽しい施設を造って彦根のアピールを	3
竹内産業部長 答弁	4
30番 中川峻彰さん 質問	4
学力調査の彦根市の状況と取り組みは	4
小田柿教育長 答弁	5
1番 中田悠貴さん 質問	6
観光客に彦根を知ってもらう取り組みは(井伊直弼関連を中心に)	6
中嶋企画振興部長 答弁	6
10番 中村僚汰さん 質問	7
狭い通学路のそばの溝に溝ぶたを	7
中辻都市建設部長 答弁	7
22番 松野未来さん 質問	8
彦根市の資源リサイクルの状況は	8
東市民環境部長 答弁	8
6番 辰巳嘉大さん 質問	9
琵琶湖でのマナー向上について	9
竹内産業部長 答弁	10
2番 三谷真穂香さん 質問	10
彦根市南部に第二図書館を造ってほしい(駅付近)	10

磯野教育部長	答弁	11
12番 田邊 聖さん	質問	11
市立病院と個人病院の共同運営について		11
赤松病院長	答弁	12
23番 疋田 翔さん	質問	12
地産地消でまちの活性化を、魚料理や野菜料理を考えて発信を		12
竹内産業部長	答弁	13
5番 安居里紗さん	質問	13
学校周辺の道に歩道や信号を。稲枝駅改修計画は		13
中辻都市建設部長	答弁	14
11番 北川綾菜さん	質問	15
地球温暖化防止活動について（琵琶湖の汚染や変化を中心に）		15
東市民環境部長	答弁	16
24番 福山達也さん	質問	16
稲枝学区に野球場を		16
小田柿教育長	答弁	17
26番 村瀬拓馬さん	質問	17
図書館の利用について（近隣市町の図書館利用や利用しやすい時間帯の移動図書館に ついて）		17
磯野教育部長	答弁	18
13番 靖本理人さん	質問	18
ひこにゃんと彦根市の知名度を上げるためにひこにゃんに家族をつくることは		18
中嶋企画振興部長	答弁	19
18番 近藤彰史さん	質問	19
地球温暖化防止について彦根市が取り組んでいることは		19
獅山市長	答弁	20
4番 大久保江美さん	質問	21
財政難について改善策は		21
獅山市長	答弁	21
3番 矢野友莉さん	質問	23
スポーツ施設を造ってほしいが、彦根市の借金は		23
松田副市長	答弁	23
14番 辻 裕人さん	質問	24
緑あふれるまちにするため、木や芝生のたくさんある公園をつくる計画は		24
中辻都市建設部長	答弁	24
29番 道田恭彬さん	質問	25

市長さんの仕事、来客、1週間の会議回数について	25
獅山市長 答弁	25
20番 中村木乃実さん 質問	27
独居老人の孤独死防止の工夫は	27
江畑福祉保健部長 答弁	27
7番 山下陽生さん 質問	29
インフルエンザ対策（ウイルスパニック対策）について	29
獅山市長 答弁	29
21番 辻 大輝さん 質問	30
中学校給食実施を	30
獅山市長 答弁	30
16番 北村健太さん 質問	31
彦根駅近くにレンタサイクルを	31
竹内産業部長 答弁	32
17番 横田拓也さん 質問	32
ペットボトルなどのリサイクルをしてどのような物がつくられるのか	32
東市民環境部長 答弁	33
28番 山田 萌さん 質問	34
観光を増やした方がいい	34
竹内産業部長 答弁	34
8番 北川尚美さん 質問	35
お茶に合う和菓子のコンテストを開催してはどうか	35
竹内産業部長 答弁	35
19番 西川直志さん 質問	36
稲枝にバス停をたくさんつくり、運行を増やしてほしい	36
中辻都市建設部長 答弁	36
9番 細居万由佳さん 質問	37
彦根城を世界遺産にする運動はしているのか	37
獅山市長 答弁	37
27番 田中千晶さん 質問	38
ひこにゃんチラシの作成を	38
中嶋企画振興部長 答弁	38
25番 宮崎 萌さん 質問	39
図書館駐車場と周辺道路の改善について	39
中辻都市建設部長 答弁	40
閉会	41

2月彦根市子ども議会会議録

平成21年2月14日（土曜日）

議事日程

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 彦根市政について（一般質問）

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 彦根市政について（一般質問）

会議に出席した議員（30名）

1番 中田 悠貴 さん	16番 北村 健太 さん
2番 三谷 真穂香 さん	17番 横田 拓也 さん
3番 矢野 友莉 さん	18番 近藤 彰史 さん
4番 大久保 江美 さん	19番 西川 直志 さん
5番 安居 里紗 さん	20番 中村 木乃実 さん
6番 辰巳 嘉大 さん	21番 辻 大輝 さん
7番 山下 陽生 さん	22番 松野 未来 さん
8番 北川 尚美 さん	23番 疋田 翔 さん
9番 細居 万由佳 さん	24番 福山 達也 さん
10番 中村 僚汰 さん	25番 宮崎 萌 さん
11番 北川 綾菜 さん	26番 村瀬 拓馬 さん
12番 田邊 聖 さん	27番 田中 千晶 さん
13番 靖本 理人 さん	28番 山田 萌 さん
14番 辻 裕人 さん	29番 道田 恭彬 さん
15番 馬場 雄大 さん	30番 中川 峻彰 さん

会議に欠席した議員（なし）

議場に出席した事務局職員

事務局 長 山田 茂生
事務局 次長 大倉 浩

副主幹兼議事係長 高 田 秀 樹
書 記 草 川 高 章

会議に出席した説明員

市 長	獅 山 向 洋 さん	会 計 管 理 者	松 岡 一 男 さん
副 市 長	松 田 一 義 さん	水 道 部 長	松 田 一 實 さん
企 画 振 興 部 長	中 嶋 修 さん	病 院 長	赤 松 信 さん
企 画 振 興 部 参 事	堀 川 英 雄 さん	病 院 事 務 局 長	堤 健 郎 さん
総 務 部 長	中 村 宇 一 さん	消 防 長	横 井 康 素 さん
総 務 部 参 事	西 村 順 一 郎 さん	教 育 長	小 田 柿 幸 男 さん
市 民 環 境 部 長	東 幸 子 さん	教 育 部 長	磯 野 治 夫 さん
福 祉 保 健 部 長	江 畑 隆 さん	文 化 財 部 長	西 川 太 平 さん
産 業 部 長	竹 内 彰 さん	企 画 振 興 部 次 長	萩 野 昇 さん
都 市 建 設 部 長	中 辻 源 壽 さん	財 政 課 長	辰 巳 清 さん
下 水 道 部 長	八 若 和 美 さん		

午前 8 時 5 3 分開議

第 1 グループ議長（靖本理人さん） 最初に議長をします城南小学校の靖本理人です。
よろしくをお願いします。

ただいまから平成 2 1 年 2 月彦根市子ども議会を開会します。

ただちに会議を始めます。

日程第 1 会議録署名議員の指名

第 1 グループ議長（靖本理人さん） 日程第 1、会議録署名議員を指名します。

会議録署名議員に 1 5 番馬場雄大さんを指名します。

日程第 2 会期の決定

第 1 グループ議長（靖本理人さん） 日程第 2、会期の決定を議題とします。

お聞きします。今回の彦根市子ども議会の会期は、本日 1 日としたいと思います。これに異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

第 1 グループ議長（靖本理人さん） 異議なしと判断します。

今回の彦根市子ども議会の会期は、本日 1 日と決定しました。

日程第 3 彦根市政について（一般質問）

第 1 グループ議長（靖本理人さん） 日程第 3、彦根市政についてを議題とし、質問を行います。

発言の通告書が 3 0 名の皆さんから提出されていますので、三つのグループに分かれて行います。

まず、第 1 グループの順番は、1 5 番馬場雄大さん、3 0 番中川峻彰さん、1 番中田悠貴さん、1 0 番中村僚汰さん、2 2 番松野未来さん、6 番辰巳嘉大さん、2 番三谷真穂香さん、1 2 番田邊聖さん、2 3 番疋田翔さん、5 番安居里紗さんの順とし、順番に第 2 演壇まで来て質問してください。

1 5 番馬場雄大さん。1 5 番。

1 5 番（馬場雄大さん） 僕は、彦根市にだれでも遊べる楽しい施設を造ることを提案します。

彦根市に、琵琶湖のような自然を活かしただれでも楽しく遊べる施設を造り、日本のどこからでも遊びに来てもらえるようにしたらいいなと思いました。

彦根市には彦根城という名所がありますが、小さな子どもにはなかなか興味を持ってもらえません。だから、僕も遊びに行くときは遠くまで連れていってもらわなければなりません。そこで、だれもが遊べるような楽しい施設を造れば、大人から小さな子どもまで何度でも遊びに来てもらうことができると思います。

ですから、彦根市に彦根城だけではなく、楽しい施設があれば彦根市のアピールにもなり、ほかの県や市からもたくさんの人に遊びに来てもらえます。そうなれば彦根市はもっと有名になると思います。だから、彦根市に楽しい施設を造ることを提案します。

第1グループ議長（靖本理人さん） 産業部長。

産業部長（竹内 彰さん） 馬場さんのご提案についてお答えします。

彦根市には、馬場さんも知っておられますように、国宝の彦根城だけではなく、多くの観光客の皆様に見たり楽しんだりしていただける文化財や名所施設があります。例えば、井伊直弼が17歳から15年間過ごした埋木舎。旧彦根藩の表御殿を復元して、井伊家に伝わった美術工芸品や国宝の彦根屏風などを展示している彦根城博物館。さらに、江戸時代の雰囲気を感じる夢京橋キャスルロードなどがあります。

ご提案いただきました琵琶湖のような自然を活かしただけでも楽しく遊べる施設について、彦根市では大きなテーマパークのような観光施設の建設は難しいと考えますが、私たちの周りには豊かな自然がたくさんあり、琵琶湖や荒神山、川もあります。さらに、夏には松原水泳場や新海浜水泳場もにぎわっています。

しかし、年々自然がなくなってきたことは本当に残念です。少しでも自然を残し、生き物を大切に、自然を楽しもうという観光スタイルも年々増えてきていますし、最近では、グリーンツーリズムとか、エコツーリズムという言葉も一般的になってきています。琵琶湖での水遊び、カヌーや魚釣り、森の中の散歩や健康ウォーク、サイクリングなどいろいろありますが、どんなことをすれば手軽に自然に親しんでいただけるか、小さい子どもも楽しんでもらえるか、考えていきたいと思います。

また、PRについては、彦根市にある観光施設や春・夏・秋・冬の季節に合わせたいろいろなイベントをホームページや観光情報誌でPRしていますが、来るたびに何か新しい発見があるまち、そんなまちになればいいなと思います。みんなで彦根市や滋賀県のこと、琵琶湖のことなどをもっと知っていただき、誇りを持って観光客の方々を温かく迎えられるのです。これからも全国から彦根に多くの観光客が来ていただけるよう頑張ります。

15番（馬場雄大さん） ありがとうございます。

これで僕からの提案を終わります。

第1グループ議長（靖本理人さん） 30番中川峻彰さん。30番。

30番（中川峻彰さん） 僕は、彦根市での学力向上の対策について質問します。

昨年春ごろ、全国一斉学力調査テストが実施されました。僕自身の苦手なところなどがよくわかり、大変よい取り組みだと思いました。

ところで、テレビや新聞などでは、学力調査時の大阪府の成績が低く、問題になっていると聞きます。この学力調査は点数などを競うものではないと先生から聞きましたが、やはり気になります。彦根市の成績はどうなのでしょう。

また、彦根市では、学力向上のために何か対策を考えておられるのでしょうか。考えておられるのなら、どのような対策を考えておられるのですか。教えてください。

第1グループ議長（靖本理人さん） 教育長。

教育長（小田柿幸男さん） ただいまのご質問ですが、中川さんも6年生になり、昨年の春に学力調査を受けられたということで、大変関心の高いことだろうと思います。結果を見て苦手なところが明らかになったということですので、新たな努力目標を持って勉強に励んでこられたことと思います。

さて、彦根市の小・中学校の学力調査の結果についてですが、彦根市では順位づけにつながらないように、市全体の平均などを数字でもって皆さんにお伝えはしていません。全体的にどうであったかについて分析した結果をお答えしたいと思います。平成20年度全国学力・学習状況調査については、彦根市全体の調査結果は全国とほぼ同じようなレベルでした。しかし、国語・算数の問題については、全国と同様、無解答率、すなわち何も書いていない人の割合が高くなり、課題と考え、後に述べますが、対策を練っているところでございます。

学力調査と同時期に行われた「児童質問紙調査」における生活状況等の調査結果でも、全国と大きな違いはありませんでした。その中で、彦根市は全国と比べて地域の行事に参加している子の割合が多いことがわかり、大変うれしく感じております。反面、家庭で学校の復習をしているかについては、小学校は「している」と答えた子どもが多くありましたが、中学校では「していない」と答えた生徒が多い結果となりました。学力と家庭での学習習慣の関係は高いので、先生たちもここがこれからの課題の一つと考え、取り組んでいきます。皆さんも、家で勉強する習慣をしっかりとつけて頑張ってください。

次に、お尋ねのあった対策についてお答えします。

彦根市では、市内の全部の学校で、学力調査の結果を詳しく調べ、ご家庭にお知らせするとともに、それぞれの学校でどうしたらよくなるかを考えました。そして皆さんの学力が少しでも上がるように、それぞれの学校で「我が校の学力向上策」というプランを立てました。

具体的には、基礎基本がしっかり身につくように、授業はもちろんのこと、朝の時間に漢字や計算の練習をしたり、学校で学んだことを確かなものにするため、学年に応じた宿題の時間や内容を決めたりするなどの取り組みを進めています。そして無解答がなくなるように、自分の思いや考えがしっかり表現できる力をつけるための授業の工夫も行っているように頑張っています。

彦根市全体では、皆さんにしっかりとした学力をつけてもらう取り組みとして、学力向上支援事業を行っています。この事業では、以前、学校の先生をしておられた方々に、学校に来ていただいて、ご指導をお願いし、それぞれの学校で夏休みに勉強会を開く活動です。また、学校教育活動支援事業では、チューターと呼ぶ学生ボランティアに、わからなくて困っている友達に勉強を教えてもらっています。

皆さんのような彦根市の将来を担う子どもたちが、学力はもちろん、体力や豊かな心を育てられるよう、学校の先生たちも、教育委員会も一生懸命にこれからも取り組んでい

きます。皆さんも勉強や運動などに意欲を持って取り組み、自分の力を伸ばしていったほしいものと大きく期待をしております。

30番（中川峻彰さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第1グループ議長（靖本理人さん） 1番中田悠貴さん。1番。

1番（中田悠貴さん） 僕は、彦根市のことをもっと知ってもらうために、「井伊直弼検定」を提案します。

彦根市には、1年を通してたくさんの観光をされる方が訪れます。彦根では、秋の「お城祭り」や「井伊直弼と開国150年祭」などのイベントが行われており、市民や観光に訪れる人たちが楽しめるようにされています。また、ひこにゃんが全国的に有名になり、彦根を盛り上げています。

そこで、井伊直弼をもっと知ってもらえば、さらに彦根を好きになってもらえるのではないかと思います。でも、主役である井伊直弼については余り知られていないように思います。

僕たちは、学校で、井伊直弼のことをもっと知ってもらうために、「井伊直弼検定」というクイズをつくりました。実際にこのクイズを彦根城で一般の観光客の方々にやってもらいました。受けてくださった人たちは、「知らなかったよ」とか「勉強になったよ」と楽しんでくださいましたが、井伊直弼や彦根城のことを余り知らないようでした。

そこで、僕たちがつくった「井伊直弼検定」のようなものを彦根市でもつくって、市民やほかの県などから来た人たちにも、PRとして、彦根をもっと盛り上げてはどうかというのを提案します。よろしくお願いします。

第1グループ議長（靖本理人さん） 企画振興部長。

企画振興部長（中嶋 修さん） 中田さんから、観光客に彦根を知ってもらうための取り組みについてご質問いただきまして、井伊直弼検定の提案をいただきました。

中田さんの質問にありましたように、観光に訪れた人に井伊直弼のことをもっと知ってもらえば、さらに彦根を好きになってもらえると思います。

そこで、彦根や井伊直弼のことを知ってもらうための取り組みですが、ボランティアガイドの皆さんが、観光客の方を彦根城や彦根城博物館、城下町や寺院の案内をするときに、彦根城の歴史や見どころ、井伊直弼の生涯やゆかりの場所などを紹介していただいております。また、彦根城博物館では、井伊直弼をテーマにした展示や展示内容を説明する講座、そして楽しみながら井伊直弼を学ぶために、井伊直弼の生涯をテーマにしたオリジナルのかるたを昨年つくってありまして、「井伊直弼かるた大会」も開催しています。

そのほかにも、昨年6月からスタートして来年の3月まで開催します「井伊直弼と開国150年祭」では、彦根や井伊直弼を全国の人に知ってもらうための事業を行っています。具体的には、井伊直弼をテーマにした特別展や講義、井伊直弼が愛した能とかお茶を楽しんだり、お茶わんなどの陶器をつくる体験ができる事業を行いました。

そしてもう一つ大切なことは、彦根に住んでいる人が彦根や井伊直弼のことをよく知り、観光で来られた人に尋ねられても正しく答えることができるようになることだと思います。そのためには、小学校で彦根や井伊直弼のことを学んでいる皆さんのように、私たち大人も彦根の歴史や魅力を学習する必要があります。これからも彦根に住んでいる人が彦根や井伊直弼のことを学ぶことができる機会をつくっていきたいと思っています。

このように、まずは観光で訪れた人や彦根に住んでいる人に彦根や井伊直弼のことを知ってもらえる機会を増やしていくことが大切だと考えています。また、知識を深めていくための目標として、中田さんから提案があった検定にチャレンジすることは効果があると思います。

今、彦根市で、毎年多くの方がチャレンジしているのが、「彦根城下町検定試験」という検定試験です。この検定試験には、井伊直弼や彦根に関する多くの問題が出題され、彦根のことをよく知っていないとなかなか合格しません。この検定はこれまでに4回行われましたけれども、検定試験を主催されている方々が、できるだけ多くの人に検定試験を受けてもらえるようにチラシを配ったり、会場を準備したりと頑張っていていただいて、受験する人が増えてきています。このように検定を行うためには多くの人の協力が必要になってきます。

この検定試験には公式テキストもつくられておりますので、この検定試験に多くの方がチャレンジすることで、彦根や井伊直弼のことをもっと知ってもらえるようにしてはどうかと考えています。この検定試験がもっと広まって、合格する人が多くなってきたところで、より深く勉強しなければ合格できない「井伊直弼検定」のような専門分野の検定をつくったらいいのではないかと考えています。

以上です。

1番（中田悠貴さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第1グループ議長（靖本理人さん） 10番中村僚汰さん。10番。

10番（中村僚汰さん） 僕は通学路のことについて提案します。

僕の通学路には危険な場所があります。特に集団登校の集合場所近くの用水路には、溝ぶたがありません。そこに小さい学年の人がときどきおはしや水筒などを落とすことがあります。また、歩いているときに落ちそうになる人もいます。集合場所を変えることも考えましたが、変えるとより遠くなってしまうので、変えることもできません。

そこで、その溝に溝ぶたをつけてほしいと思いました。溝ぶたがつけば、物を落としたり、落ちそうになったりすることもなくなり、安全に登校できると思います。ぜひそこに溝ぶたをつけてください。

第1グループ議長（靖本理人さん） 都市建設部長。

都市建設部長（中辻源壽さん） 中村さんのご意見にお答えいたしたいと思っています。

彦根市が管理している道路や水路の維持、安全対策などにつきましては、毎年たくさん

の要望書を各自治会および住民の方々からいただいております。彦根市の道路や水路維持の予算は限られておりまして、すべての要望にお応えすることは難しいことから、現地を確認し、効果や緊急性などを考え、優先順位をつけて工事を実施する場所を決めております。

今回のご質問は「平田小学校への通学路には、道路幅が狭く、そばに水路があるところがあり危険なことから、水路にふたをしてほしい」とのことです。ご意見のとおり、ふたをすれば道路の幅が広がり、安全に通学することができると思います。今回のご意見の箇所につきましては、早速、現地を確認いたしました。下流のところでは農業用水として利用されていることから、水路にふたをする場合、農業の仕事をしている方々の承諾が必要と思われます。また、ふたをすることによって水路の掃除など維持管理が難しくなり、今の道路の高さに合わせてふたをすることは、ふたの厚みの分だけ水路の断面積が小さくなり、流れる水の量も少なくなります。こうしたことから、近年たくさん起こっている局地的集中豪雨に対応するためにも、水路の断面を小さくすることは避ける必要があります。したがって、中村さんのおっしゃる場所にふたを設置することは困難と思われます。

ほかの方法としては、水路に沿って防護柵を設置することも考えられますが、防護柵を設けることにより道路の幅が狭くなり、車の通行に支障となることから、地域住民の了解が必要となります。

以上のことから、当地区の地域住民の皆様のご意見や農業関係者などのご理解が得られるのであれば、自治会から市の方に要望書を出していただきまして、他の地域と同様に、危険性、緊急性を考え、優先順位を決めながら、安全対策を進めたいと思っております。

10番（中村僚汰さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第1グループ議長（靖本理人さん） 22番松野未来さん。22番。

22番（松野未来さん） 彦根市のリサイクルの現状について質問します。

私は、夏休みに、環境をテーマに自由研究をしたとき、環境保護のために資源のリサイクルの重要性を知りました。

今、世界では、環境保護のためにいろいろな資源のリサイクルがされています。ヨーロッパでは、びんの色や種類によって細かく分類し、回収することで、リサイクルを進めています。機械や車なども小さな部品まで分解し、リサイクルする国があると聞きました。しかし日本では、まだそこまでの意識の高まりがないと感じています。

そこで、彦根市では、どのような資源をリサイクルに回し、環境保護の取り組みを進めているのか疑問に感じました。だから私は、彦根市のリサイクルの現状と、これからどのような取り組みをしようと考えておられるのかを聞きたいと思っております。

第1グループ議長（靖本理人さん） 市民環境部長。

市民環境部長（東 幸子さん） 松野さんのご質問の彦根市の資源リサイクルの状況

についてお答えいたします。

資源のリサイクルについては、身近な問題であり、多くの市民の皆さんが関心を持っておられます。特に小学生の皆さんが子どものときからごみの分別やリサイクルに関心を持ち、環境意識を身につけていただくことは素晴らしいことで、これからの環境を守っていくためにはとても重要なことであると考えています。

さて、彦根市では、資源を有効に利用するため、家庭から出るごみや資源のうち、次のものを収集し、リサイクルしています。

まず、飲み物などのガラスびん、アルミ缶、スチール缶、なべやフライパンなどの金属類、お菓子の袋やレジ袋、卵のパック、トレーなどのプラスチックでできた入れ物、ペットボトル、使用済みの乾電池などで、それぞれ、ガラスや金属、プラスチックの原料としてリサイクルしています。

また、てんぷら油をリサイクルして、清掃センターのごみ収集車や作業車の一部で燃料として使用していますし、粗大ごみは小さく砕き、電気製品や家具などに使われていた金属を回収するとともに、最近増えていますプラスチック製のケースなども、プラスチックの原料として再利用しています。

また、小学校や中学校などのPTA活動や子ども会活動などでは、新聞、雑誌、段ボール、衣類を集め、リサイクルに協力していただいています。

しかし、残念なことに、資源として集められたものすべてがリサイクルできるわけではありません。食品などで汚れていたり、中身が残っているもの、ほかの種類のごみと混ぜてしまっているものは、ごみとして燃やしたり、埋め立て処分しています。せっかくの資源ですから、少しでもたくさんのものがリサイクルできるように、市民の皆さんにはきれいにし出していただくよう協力を呼びかけているところです。

現在、市内で集められたごみや資源をリサイクルしている割合はおよそ15%ですが、ごみの中にはまだまだリサイクルできるものがたくさんあり、リサイクルの割合が28%になるように目標を立てて取り組んでいます。

彦根市では、今後、できるだけ早い時期に、新聞や段ボールなどの古紙と洋服などの衣類を分別回収することによって、リサイクルをさらに進めていく計画をしています。またプラスチックなどのリサイクルも拡大していきたいと考えています。ごみをできるだけ少なくする努力も大切です。お店などでレジ袋や包装を断ったり、家で生ごみを少なくする工夫をすることも大事なことです。皆さんと一緒に、ごみを減らし、リサイクルに取り組みまちを築いていきましょう。

以上です。

22番（松野未来さん） ありがとうございます。

これで私からの質問を終わります。

第1グループ議長（靖本理人さん） 6番辰巳嘉大さん。6番。

6番（辰巳嘉大さん） 僕は琵琶湖を利用する人のマナーをよくするための取り組み

はどんなことをしているのかを質問します。

僕たちは琵琶湖のそばに住んでいます。浜には、ごみや野菜などがよく落ちています。また、夏にジェットスキーをする人が、禁止されている区域や浜の近くまで大きな音を立ててやってきます。騒音もするし、危ないし、とても迷惑しています。またまちのみんなが順番を決めて、ごみ拾いなどをしてはいますが、バーベキューをしたり、花火をする人が多く、特に夏の方がごみが多くて、毎日とても困っています。また学校も、琵琶湖の日に掃除をしましたが、とてもごみの種類や量が多くて苦労しました。

そこで、彦根市としては、琵琶湖を使う人のマナーがよくなるようどのような取り組みをされているのか、質問します。

第1グループ議長（靖本理人さん） 産業部長。

産業部長（竹内 彰さん） 辰巳さんのご質問にお答えいたします。

毎年夏になると、多くの方が水泳やマリンスポーツを楽しみに琵琶湖に来られますが、辰巳さんのご意見のように、一部マナーの悪い人が、ごみを捨てたり、進入禁止とされている区域内でジェットスキーをしたり、禁止されている場所でバーベキューや花火をするなど、水泳客や付近に住んでいる方々が迷惑されていることは聞いています。

このため、松原水泳場や新海浜水泳場では、夏の間、琵琶湖を管理している滋賀県や地元の方々と協力して、注意看板を立てたり、警備員などがパトロールをしたり、マイクで呼びかけるなどしていますが、なかなかマナーがよくなるのが現状です。

滋賀県には、ジェットスキーなどの利用を制限する「琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」がありますし、地域の方々が自ら地域協議会をつくって、広報・監視活動をされる場合に対する補助制度もつくられています。また、彦根市にも、「ごみの散乱およびふん害のない美しいまちづくり条例」があり、ごみのポイ捨てなどの禁止行為に違反した人への罰則規定もあります。

これからも、これらの条例に基づいて、県や地域の方々の協力をいただきながら、迷惑行為がなくなるよう粘り強い取り組みを行っていきます。

6番（辰巳嘉大さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第1グループ議長（靖本理人さん） 2番三谷真穂香さん。2番。

2番（三谷真穂香さん） 私は、彦根市に第二図書館を造ることについて提案します。

彦根市に図書館は一つしかありません。場所は北の方なので、私の住む南部の方からは遠く、少し不便です。そしてこの図書館を造ることに関しては、昔から願いがあったことも勉強して知りました。この昔からあった願いのことを知って、本が好きな私は、ぜひ第二図書館を造ってほしいと思いました。

今は図書館の利用者が減っているということを知り、どうすれば利用者が増えるかを考えてみました。それは場所だと思います。駅の近くに建てると、電車でも利用できて、いいと思いました。

私は、たくさんの人に、本を読んで、本を通していろいろなことを学んだり、感じたりしてもらいたいです。そして心の豊かな人がたくさん増えてくれることを願っています。だから、第二図書館を造ることについて提案します。

第1グループ議長（靖本理人さん） 教育部長。

教育部長（磯野治夫さん） 三谷さんがお住まいの近くに図書館があれば便利ですね。また、それが駅の近くならもっと便利ですね。

ご質問では、彦根市の南部の駅周辺に第二図書館を造ってほしいとのことですが、確かに市の北と南に図書館があり、市民がどちらの図書館も使えるようになれば非常に便利になることから、これまでも南の方に第二図書館を造ってはどうかという議論がされてきました。

もう一つ図書館を建てるとなると、たくさんのお金が必要なのはもちろんのこと、維持していくにはお金も人も2倍必要となることから、二つの図書館を運営していくのは大変難しいことです。しかし、今の図書館は北に位置していることと、30年前に建てられて建物や設備が古くなったことや、本が増え書庫が手狭になっていることは、図書館にとって大きな課題であります。

また、図書館は、心をいやしたり、憩いの場であったり、地域の人たちが集い、交流する場でもあります。

これからこのような図書館の働きを高めていくためにも、また彦根市だけではなく、周辺のまちの人たちにも使いやすく便利な図書館が必要だと考えており、その実現に向けて努めてまいります。

三谷さんが言われましたように、利用者が増え、本を通していろいろなことを学んだり、感じたりして、心豊かな人が増えることは大変よいことだと思います。

以上です。

2番（三谷真穂香さん） ありがとうございます。

これで私の提案を終わります。

第1グループ議長（靖本理人さん） 12番田邊聖さん。12番。

12番（田邊 聖さん） 僕は、市立病院と個人病院の共同運営について提案します。

彦根市には、市立病院という大きな病院があるのに、医師が不足しています。そこで、個人病院を市立病院の敷地に入れて、共同で運営したら、より多くの人を助けることができると思います。

僕の家族が、以前、夜間の救急に行ったとき、担当の先生がおられず困りました。あんなに大きな病院なのに医師が少ないのでは、もし大きなけがや病気をしたときに大変なことになります。

そこで、市立病院と個人病院が共同で運営し、個人病院では診察をしてもらい、入院の場合は大きな市立病院へ行くようにすると、彦根の人たちが安心して暮らすことができるまちになると思いました。だから、市立病院と個人病院が共同で運営していくことを提案

します。

第1グループ議長（靖本理人さん） 病院長。

病院長（赤松 信さん） 市立病院には、現在65人のお医者さんと320人の看護師さん、そのほか全部で800人以上の人が働いています。市立病院では医師が不足しているので、それを解決する一つの方法として、個人の医院を病院の敷地の中で開業してもらい、外来の診療はその個人の医院で、入院は市立病院ですればいいのではないかという質問ですね。とてもいい提案だと思います。質問にある個人の病院というのはまちのお医者さんという意味だと思いますので、ここでは診療所と呼ぶことにします。

今、全国の病院で医師が不足しています。産婦人科や小児医療、救急医療などで問題が起きていることを、皆さんも聞いておられると思います。それを解決する方法はいろいろ考えられていますが、その一つに、病院と診療所の協力をもっと推し進めて、病院では病院でしかできないことをやってもらう。そのほかは診療所でやってもらう。その連携が十分できるようにして、患者さんが不便にならないようにするということが言われています。

診療所と違って、手術をするとか、難しい検査をするとか、救急車で来る重い病気やけがの人を診るのが、市立病院の一番大きな仕事です。そのような病院を急性期病院と言います。そのために専門のお医者さんがたくさんそろっているのです。一方、診療所では、軽い症状の患者さんを診て、「これは重い病気になるかもしれないぞ」とか「これは専門の先生に診てもらわないと難しいぞ」とか「すぐに手術をしないと危ないぞ」といった人を病院に紹介するのです。これを診療所と病院の役割分担とか、連携と言います。これがうまくいかないと、必要なときに必要な医療が受けられないということになります。

この連携プレーは、実は何年も前から始められているのです。そのために情報をやりとりする人や専用の部屋も病院の中にあるのです。診療所が病院の敷地内になくても、今は電話やファックス、インターネットなどで情報をやりとりできますから、この連携がもっと進めば病院の医師不足を解決する一つ的手段になると思います。ただ、診療所がみんな病院の敷地の中で診療するというのは、その地域、地域に、近くのかかりつけの診療所がなくなるので、これはかえって不便になるのではないのでしょうか。

患者さんもこういったことをよく理解していただいて、病院や診療所にかかるときに、うまく使い分けることがとても大事なのだということをおぼえていただきたいと思います。

12番（田邊 聖さん） ありがとうございました。

これで僕の提案を終わります。

第1グループ議長（靖本理人さん） 23番正田翔さん。23番。

23番（正田 翔さん） 僕は、市内の地産地消について質問します。

僕の家は農家なので、物を買うとき、どこでつくられているのだろうと気になります。例えば、学校の給食の先生に、「この御飯はどこのお米ですか」と尋ねてみたところ、彦根市のお米ではありませんでした。これは例えですが、ほかにもいろいろなところで、このようなことが行われているのではないかと思いました。

そこで、給食や商品など、できるだけ彦根市内のもので賄えばいいと思います。市外の商品の方が安いかもしれませんが、暖かい盆地の気候や琵琶湖を活かして魚料理や野菜などの特産品を、JAや市役所を中心につくっていけばまちが活性化すると思います。

以上のことから、みんなで協力して地産地消を目指すことについて、彦根市のお考えを聞かせてください。よろしくお願いします。

第1グループ議長（靖本理人さん） 産業部長。

産業部長（竹内 彰さん） 正田さんのご質問にお答えします。

地域でとれた米や野菜、果物や水産物をその地域で消費することを地産地消と言います。こうすることによって、新鮮で安心できるものを供給でき、また運搬に係るエネルギーを減らせることから、温室効果ガスの排出が少ない低炭素社会に役立つ、環境にやさしい取り組みです。最近では、安全な食べ物を安心して食べたいという皆さんの願いなどから、これら地産地消への関心が高まってきています。

そこで、彦根市では、地産地消を進めるため、去年の10月から、市内の17小学校と稲枝中学校の給食で、全部ではありませんが、一部、彦根でとれたお米を使ったピラフや炊き込み御飯を食べてもらっています。また野菜についても、今後地域でとれたものを学校給食で食べてもらえるよう計画を立てています。

しかし、そのためにはたくさんの問題を解決しなくてはなりません。例えば、彦根市の農業はお米の生産が中心となっています。そのため野菜や果物の生産量は少ない状態です。また魚についても、鮎中心の漁業が行われてきましたが、ブラックバスなどの外来魚の増加や琵琶湖の環境の悪化などによって、漁獲量は減ってきています。このため、今後、地産地消を進めるためには、彦根市で生産する野菜だけでは不足していますので、彦根市を初め、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町の1市4町全体として、地産地消が取り組めないか考えていきたいと思っています。

一方、滋賀県でも、去年の9月から、「おいしが うれしが」キャンペーンを行っており、滋賀県産の農産物を県民に知ってもらい、滋賀県のもものを食べてもらうよう取り組まれています。

皆さん方もおうちの人と一緒に買い物に行かれたら、どのようなところで生産されているか、とれているか、またどんなPRやキャンペーンがされているか、気にとめて見てください。そしてみんなで、できるだけ地元のもものを食べて、まちが活性化するといいと思います。

以上です。

23番（正田 翔さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第1グループ議長（靖本理人さん） 5番安居里紗さん。5番。

5番（安居里紗さん） 私は、稲枝西小学校周辺の道と稲枝駅の建て替えについて提案します。

私たちの稲枝西小学校の周辺には、大きな道路が二つあり、一つは3年前に完成した新しい道路で、交通量も比較的多く、1年で何度も交通事故が起きています。最近では、信号機のない交差点での死亡事故も起きています。なので、この交差点に信号機をつけてほしいです。また、もう一つの旧道は、児童の通学路になっていますが、歩道がなく、道幅も狭いため、歩いている人や自転車に乗っている人のすぐ近くを車が通り、みんなとてもときどきしています。なので、新しい道に信号機をつけてもらうことと、旧道にぜひ歩道をつけてもらうことを提案します。

もう一つは、私たちの稲枝地区にあるJR稲枝駅は、通勤や通学で地元の多くの人たちが利用していますが、とても古くなっていて、エスカレーターなどもなく、階段しかありません。そのため、お年寄りや小さな子どもなどは階段の上り下りがとてもつらそうです。また東側しか出入り口がないため、駅の西側に住んでいる人たちはとても不便です。そこで、稲枝駅を新しく建て替え、みんなが利用しやすい駅にしてほしいです。

第1グループ議長（靖本理人さん） 都市建設部長。

都市建設部長（中辻源壽さん） 安居さんのご意見である信号機につきましては、1日を通して、たくさんの車や人が通行する交差点で、信号機がないと事故が起きたり、車が渋滞したりするところに設置されるものです。実際に信号機を設置するかどうかは、彦根警察署の人が車の通行量などを調べて、最終的には滋賀県の公安委員会というところで決定されます。

安居さんがつけてほしいと言われているところでは、実際に死亡事故が起きていますので、ご要望を警察にお伝えしておきますが、信号機の設置は年間の設置台数がほぼ決まっております。彦根市内では1年間で2カ所程度となっております。事故件数が多いところや車の通行量が多いところなど、優先度の高いところから設置されており、なかなかご希望どおり、すぐにはつかないというのが現状でございます。

次に、歩道設置のご意見についてでございますが、まず、新しい道が造られた経過からご説明します。今回、歩道を要望されている古い狭い道路は、通行量も多いことから道路改良することになりましたが、改良するに当たり、二つの方法が考えられました。

一つは、古い狭い道を広げる方法。もう一つは、別のところに新しい道を造る方法です。古い狭い道を広げるには、道路に面する家の移転が必要となり、住んでいる皆さんにご迷惑がかかるとともに、大きな事業費が必要となるため、今回は集落の周辺に新しい道を造る方法が選択されました。新しい道ができたことにより、古い狭い道の通行量は減少し、歩行者および自転車の安全性は向上したものと思います。

彦根市では、市民の皆様のスムーズな交通を図り、効率的な道路整備を推進するため、「彦根市道路整備プログラム」を作成し、これに基づき、順番に道路の整備を行っております。また、通勤・通学者など多くの交通が集中する駅周辺から公共施設などへ安全に誘導するため、「彦根市交通バリアフリー基本構想」というものを作成し、歩道の整備やバリアフリー化を図っております。

先ほど申し上げました新しい道路には、基準どおりの歩道が設置されておりまして、古い狭い道路には歩道を設けることは、現時点ではできません。しかしながら、危険と思われる箇所には安全標識を設置するなど別の方法もあることから、地域の自治会から要望を出していただきまして、地域のご意見をお聞きしながら進めたいと思っております。

最後に、稲枝駅改修計画につきましては、稲枝駅は今から90年ほど前に建てられたもので、建物も古く、エレベーターやエスカレーターもないことから、バリアフリーの点からも建て替えが必要な駅でございます。

稲枝駅の建て替えにつきましては、地元稲枝の皆さんの長年の願いでありまして、現在は、稲枝駅を建て替えた場合、駅前広場をどうするのか、あるいは道路をどうつけるかなど、地元の皆さんと話し合いをしているところです。

彦根市も財政状況の厳しい中ではありますが、皆様のご要望に沿えるよう努力してまいりたいと思っておりますので、安居さんを初め、稲枝の地元の皆様のご協力をよろしくお願いしたいと思います。

5番（安居里紗さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第1グループ議長（靖本理人さん） しばらくの間休憩します。

午前9時46分休憩

午前9時57分再開

第2グループ議長（田中千晶さん） 議長を交替しました。佐和山小学校の田中千晶です。よろしくお願いいたします。

休憩の前に続いて、会議を開きます。

第2グループの順番は、11番北川綾菜さん、24番福山達也さん、26番村瀬拓馬さん、13番靖本理人さん、18番近藤彰史さん、4番大久保江美さん、3番矢野友莉さん、14番辻裕人さん、29番道田恭彬さん、20番中村木乃実さんの順とし、順番に第2演壇まで来て質問してください。

11番北川綾菜さん。11番。

11番（北川綾菜さん） 私は、今、琵琶湖に起こっている環境の変化について質問します。

滋賀県には日本一大きな湖の琵琶湖があります。でも、今、その琵琶湖の環境に変化があります。水が汚くなってきているなどの変化が起こっている琵琶湖のことを皆さんはどう思われますか。またこのことを防ぐために、彦根市ではどんな活動をしておられますか。

私は5年生の自由研究で琵琶湖のことについて調べ、6年生の自由研究では地球温暖化のことについて調べました。それらの経験から、環境の変化や今、私たちの身近なところで起こっている問題などに興味を持っています。琵琶湖にも変化が起こっているので、彦根市ではどんな活動を行っているのかということに関心を持ちました。

だから、私は琵琶湖の変化についてとその防止活動について質問します。

第2グループ議長（田中千晶さん） 市民環境部長。

市民環境部長（東 幸子さん） 北川さんのご質問にお答えいたします。

最近の研究者の人たちの話によりますと、琵琶湖も呼吸をしているのですが、昔に比べ呼吸ができにくくなっていることがわかりました。雪の降る量が減ったために、冷たい雪解け水が川に流れなくなってきました。酸素を多く含んだ冷たい川の水が、少し温かい琵琶湖に流れ込むと、底の方へ行き、琵琶湖の水がうまく循環したのですが、今は川の水温が高いため、うまく循環できず、琵琶湖の底では酸素が減りつつあります。このままでは、琵琶湖の植物や魚がうまく育たなくなったり、琵琶湖の水をきれいにしようとする力が弱くならないか心配しています。

そこで彦根市では、温暖化を防止する必要があると考え、温暖化の原因となる二酸化炭素を出さないまちづくりをするため、昨年7月、「彦根市低炭素社会構築都市宣言」を行いました。市民みんなで取り組もうと呼びかけていることは、出かけるときはマイカーを控えてバスや自転車を使う、電気はこまめに消す、植物をたくさん植えて緑の量を増やす、買い物にはマイバッグを使うなどがあります。また市役所では、いろいろなところで環境についてのイベントをしたり、小学校へ行って環境の授業をするなど、もっと温暖化問題に関心を持っていただき、さらに地球温暖化防止のための活動を実践していただけるよう取り組みをしています。

琵琶湖の汚れや地球の温暖化は、彦根市民みんなの問題であり、人類みんなの問題です。さらに人間だけではなく、魚や植物など、地球上で生きているものすべてのためにどうすればいいのか、これからも皆さんと知恵を出し合い、これらの問題解決に向けて一緒に頑張りたいと思います。

以上です。

11番（北川綾菜さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第2グループ議長（田中千晶さん） 24番福山達也さん。24番。

24番（福山達也さん） 僕は、稲枝地区に少年野球場を造ることについて提案します。

今、僕は、スポーツ少年団で野球をしています。僕たち稲枝西小学校のグラウンドは水はけが悪く、1日雨が降ると、何日もグラウンドが使えません。それに近くには大きなグラウンドがなくて困っています。彦根の北部にある彦根球場は、稲枝の僕たちのところからは遠くて、時間がかかってしまいます。それにだれでも自由に球場内に入ることができません。

そこで、稲枝学区に、だれでも使える少年野球場を造ってもらえればなと思っています。稲枝は田んぼが多く、広い土地もあります。一度、検討していただけないか。

稲枝地区に少年野球場を造ることについて、彦根市としての考えを聞かせてください。

よろしく申し上げます。

第2グループ議長（田中千晶さん） 教育長。

教育長（小田柿幸男さん） 健康で楽しい生活を送るために、一人ひとりに適したスポーツを楽しむことが大切です。スポーツを楽しむためには、福山さんが言われるように、安全で楽しく、いつでもプレーできる場所が身近にあるとよいと思います。

稲枝西小学校のグラウンドの水はけが悪いことから、野球の練習が十分にできない日があることと思います。市内には34の幼稚園、小学校、中学校がございまして、それぞれの学校園から運動場や校舎などの施設の修理や新しくしてほしいという要望が上がってきております。そういうことについて調査をして、考えているところですが、園児や児童・生徒の皆さんの安全を第一に、今一番大きな課題になっている大地震が来ても耐え得る、皆さんの命を守る校舎耐震工事、さらに不審者の侵入を防止するという事で門扉の設置等、安全面を第一に、また予算を考えながら、各幼稚園、小・中学校で、修理等の改修などを計画的に進めているところです。

福山さんのように、野球を楽しんでいただく施設としては、県営の彦根球場のほかに、彦根市が市の北部に金亀球場、南部には荒神山球場を造り、皆さんが利用しやすいようにしているところです。また、身近な施設を利用していただけるように、市内のすべての小学校と中学校の体育館や運動場を開放しています。稲枝学区には、稲枝地区体育館の近くにある稲枝地区ふれあい広場も利用できますので、練習を工夫するなどして使用していただければと思います。

「稲枝は田んぼが多く、広い土地もあります」とのご意見をいただきましたが、稲枝地区の大部分の水田や畑などの農地は、農業を振興するため、いわゆる農業を盛んにするため、「農業振興地域の整備に関する法律」による農用地区域に指定されています。農用地区域の農地は、水田や畑として利用することを目的とした土地ですから、農地以外の目的で土地を利用することが大変厳しく制限されており、稲枝地区の水田や畑を野球場等に造り替えることは非常に難しくなっています。

また、福山さんも学校で勉強したり、テレビなどで知っているように、彦根市だけではなく、全国的に税金による収入が減っています。だれもが使える少年野球場などがもっともっとあるとよいのですが、今のところ、野球場や各種スポーツ施設、体育館などのような施設を新しく造ることは財政的に極めて難しいことです。

このようなことから、新しい球場を造ることは難しいのですが、今ある場所や練習を工夫していただいて、スポーツを十分に楽しんでいただきたいと思います。

以上です。

24番（福山達也さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第2グループ議長（田中千晶さん） 26番村瀬拓馬さん。26番。

26番（村瀬拓馬さん） 僕は、図書館の利用についての提案をします。

僕は、移動図書館がいろいろなところに来ているのは知っています。そこで、もっと利用してもらえるように、学校に移動図書館が来たらいいなと思いました。そうすれば、図書室にない本とかも借りられるし、もっと多くの人が借りてくれると思います。

次に、僕らの地域からは彦根図書館はちょっと遠いので、ほかの地域の図書館、愛知川図書館や能登川図書館などが利用できたらいいなと思いました。そうしたら、もっと僕らも図書館を身近に利用できるし、多くの人が便利になると思います。

だから僕はこの二つのことを提案します。

第2グループ議長（田中千晶さん） 教育部長。

教育部長（磯野治夫さん） 移動図書館は、図書館が遠くて利用しにくいところに住む人たちのために、巡回して、本の貸し出しや相談の役割を果たしています。巡回場所や時間については、住宅の固まりぐあいや市民の利用しやすさなどを考えて決めています。

村瀬さんが言われるように、各学校を移動図書館が巡回できれば、小学生の皆さんにはとても便利なことです。そこで、今利用されている人や地域の人たちのご理解とご協力を得ながら、学校の昼休みや終わりの時間に合わせたりして、学校と連携をとり、利用しやすいように工夫して、巡回を実現できるように考えていきます。

次に、他の地域の図書館が利用できないかという提案についてお答えいたします。

現在、彦根市を初め、周りの町の図書館の利用は、住民の方や通勤か通学されている方しか本を借りることができませんが、住んでいるところと関係なく、近くの図書館が利用できたら非常に便利なことだと思います。そこで、国では、市町村の区域を越えて、住みよいまちづくりを協力し合う新しい仕組みをつくられましたので、その仕組みを利用して、彦根市と周りの町の図書館が利用できるよう話し合いを進めていきたいと考えているところです。

彦根市では、学校図書館の充実にも力を入れておりますので、大いに利用いただき、たくさんの方に親しみ、心豊かに成長されることを願っております。

以上です。

26番（村瀬拓馬さん） ありがとうございました。

これで僕からの質問を終わります。

第2グループ議長（田中千晶さん） 13番靖本理人さん。13番。

13番（靖本理人さん） 僕は、彦根市のマスコットキャラクターひこにゃんについて提案します。

ひこにゃんは、市内だけではなく、全国的にも人気があって、国宝・彦根城築城400年祭のときには、全国からたくさんのお客さんが彦根城に来て、彦根市の知名度がとても上がりました。でも今は、全国からのお客さんが400年祭のときほどいなくて、彦根市の知名度が下がりつつあるように感じています。

だから僕は、ひこにゃんの家族をつくって、彦根市や彦根城の知名度をさらに上げていけばいいと考えました。だからひこにゃんの家族をつくることを提案します。

第2グループ議長（田中千晶さん） 企画振興部長。

企画振興部長（中嶋 修さん） 靖本さんの質問にお答えします。

皆さんがよく知っているように、ひこにゃんには全国に大勢のファンの方がいます。そういったファンの中には、ひこにゃんを知ったことで彦根のことを知ったという人もおられ、ひこにゃんは彦根市のPRに大きく役立っています。ひこにゃんは、国宝・彦根城築城400年祭のメインキャラクターとして誕生し、国宝・彦根城築城400年祭の終了後も、彦根市のキャラクターとして、彦根城や大都市でのPRキャンペーンなどに活躍しています。

ひこにゃんに出会った人は、ひこにゃんのかわいい姿やしぐさにいやされるという人が多く、全国にたくさんいるキャラクターの中でも一番人気のあるキャラクターになっています。去年10月に開催された「ゆるキャラまつり」には、4万人を超える人がひこにゃんやひこにゃんの呼びかけに集まってくれたキャラクターに会いに来てくれました。

ひこにゃんがこんなにも人気のあるキャラクターになったのは、ひこにゃんにかかわるたくさんの方が、ひこにゃんのイメージを守るためにいろんな努力をしてきたからです。例えば、ひこにゃんが彦根城に登場しているときは、決してほかの場所には登場していませんし、ひこにゃんはしゃべりません。それはファンの皆さんのひこにゃんに対するイメージを壊さないようにしようとしているためです。

靖本さんから、もっと彦根市の知名度を上げるために、ひこにゃんに家族をつくってはどうかという提案をいただきました。しかしひこにゃんは、もともと、彦根藩二代藩主である井伊直孝公をお寺の門前で手まねきして雷雨から救ったとされる招き猫と、井伊軍団のシンボルとも言える赤備えのかぶとを合体させて生まれたキャラクターで、最初から家族はいません。後から家族をつくることによって、ひこにゃんのもともとのイメージが変わってしまって、ひこにゃん自体の人気がなくなったりすることもあります。

そうしたことから、これからも今のひこにゃんを大切に、ただ一つしかない彦根市のキャラクターとして活躍してほしいと考えています。またひこにゃんには、しまさこにゃんややちにゃんなど、彦根のゆるキャラの仲間がいますので、こうしたゆるキャラと一緒に彦根を盛り上げてほしいと思っています。

以上です。

13番（靖本理人さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第2グループ議長（田中千晶さん） 18番近藤彰史さん。18番。

18番（近藤彰史さん） 僕は、彦根市が取り組んでいる地球温暖化防止について質問します。

社会科の学習で、地球温暖化という問題は、僕たちの生活だけではなく、雨が多く降ったり、島が沈むなど、自然に大きな影響を及ぼしていることを知り、僕は将来についても心配になりました。

その問題を少しでも解決するために、彦根市が取り組んでいることは何なのか知りたいと思います。僕たちにもできることは何なのか。詳しく知って、少しでも問題点をなくしていけたら、彦根市から地球環境を変える提案ができるのではないのでしょうか。

そこで、彦根市では、地球温暖化防止のためにどんな取り組みをされているのか質問します。よろしくお願いします。

第2グループ議長（田中千晶さん） 市長。

市長（獅山向洋さん） 地球温暖化防止についてのご質問にお答えいたします。

地球温暖化の原因は化石燃料の使用にあると言われていています。化石燃料というのは、石炭とか石油です。化石燃料を利用しますと、二酸化炭素がたくさん出てくるわけで、そのために地球から熱が逃げなくなってしまって、温室のようになってしまうわけです。ですから私たちは、何とかして化石燃料を使わないような生活をしなければならないわけです。

昨年7月のことですが、北海道洞爺湖において、世界の首脳が集まって、洞爺湖サミットというのをなさいました。洞爺湖サミットに合わせまして、彦根におきましては「低炭素社会構築都市宣言」というものを行ったわけでございます。当時、低炭素社会といってもなかなか皆さんに理解していただけなかったわけですが、既に皆さんの方からこういうご質問が出るということは大変うれしいことだと思っております。

そこで、この都市宣言を現実に実行していくために、彦根市におきましては、いろいろと皆さんに呼びかけております。例えば「広報ひこね」という彦根のいろいろなことをお知らせするものが月に2回ずつ配布されているわけでございますけれども、その中で、「冷房の温度を1度高くする。暖房の温度を1度低くする」、「テレビ番組はできるだけ選んでもらって、1日1時間、テレビを見る時間を減らしてほしい」、「シャワーを浴びるときは1分だけ短くしてほしい」というようなことを皆さんにお願いしております。

また、「環境家計簿」というものをつけてほしいとお願いしております。家計簿は、普通、お金の出し入れを書くものでございますけれども、環境家計簿というのは、毎月家庭で使う電気、ガス、水道、ガソリンなどをその家計簿に書いていただくと、二酸化炭素を使った量がわかるというものなのです。こういうものを書いていくと、自然に、できるだけ炭酸ガスを出さないようにしようという気持ちになっていくわけです。

さらに、小学校の皆さんにもぜひ考えていただきたいということで、小学校4年生から6年生の方々を対象に、温暖化防止をテーマとした環境学習を行っていただいております。今後、環境学習を受けてもらえる学校をどんどん増やしていきたいと思っております。

それともう一つ、皆さんの学校でやっていただいたかもしれませんが、去年の夏に、学校の教室の窓をゴーヤ、沖縄のにがうりですが、ゴーヤなどで覆う「緑のカーテン」を三つの小学校で試験的に行っていただきました。9月初めの調査では、ゴーヤなどで覆われていない教室に比べると、部屋の温度が1度前後低くなるということがわかりました。今後も引き続き、「緑のカーテン」の効果を確認して、実施していただく小学校あるいは中学校を増やしていきたいと思っております。

いろいろと申し上げましたけれども、やはり私たちの地球の温度がどんどん高くなっていきますと、ご質問にありましたように、北極の氷が減ってきたり、氷河が溶けていったり、太平洋の島の水位が上がってきて危険な状態になったり、最近是非常に集中豪雨が増えてきておりました、これも地球温暖化が原因ではないかと言われているわけで、私たちの環境が非常に危険な状況になってきますので、皆さんにおかれましてもぜひとも関心を持っていただきまして、また実行していただきますようお願いいたします。

以上です。

18番（近藤彰史さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第2グループ議長（田中千晶さん） 4番大久保江美さん。4番。

4番（大久保江美さん） 私は彦根市の財政問題について質問します。

彦根市は財政難で、しかも最近、財政難がさらに悪化していると耳にしました。ここで質問なのですが、具体的に、財政難は市にどのような影響を与えるのですか。そして市は財政難を改善するに当たってどのような取り組みをされているのですか。

私はまだ6年生で、政治に関しても少しずつ学習を始めただけで、まだ深い知識は持っていません。それに財政難と言われても、よくわからないところがあります。でも、市に悪い影響を与えることは確実だとわかります。なので、この財政難が改善されたあかつきには、市にどのような利点があるかわかるか、そして市は財政難の改善に対してどのような取り組みをされているか、知りたくなりました。

ですから私は、彦根市の財政問題について質問します。

第2グループ議長（田中千晶さん） 市長。

市長（獅山向洋さん） 財政難についてのご質問にお答えします。

現在、全国には800ぐらいの市がございます。どの市も財政難にあえいでいるわけですが、財政難もそれぞれの市によって原因があったり、特徴があるわけです。

例えば、皆さん、あの有名な夕張市、これはテレビでもごらんになっていると思いますが、あの夕張市は本来、炭鉱のまちだったわけですが、炭鉱が閉鎖されて、どんどん人口が減っていったわけです。しかも炭鉱が閉鎖されたのに対して、国の方から観光とかいろいろなことでお金を貸してあげようということで、お金をたくさん借りたわけですが、返済するだけの能力がなくて、非常に苦労しているわけです。

そういうことから考えますと、例えば彦根市ではどんな特徴があるかということなのです。彦根市では、現在、たくさんの借金があるわけですが、その原因は、まず一つは、下水道事業に非常にたくさんのお金をかけて、しかもそれを借金でつくっていると言っても過言ではないわけです。それともう一つは、6年前に、彦根市立病院を新築したわけです。これも借金で建てたわけですが、それについても現在返済中である。こういうようなことが大きな特徴なのです。そのほか、例えば駅東の方で、今、土地区画整理事業と

いうのをやっているのですが、これについても多くは借金に頼っている。さらにいろいろな道路の整備とか、そういうものもやはり借金をしながらやっているわけなのです。

ですから、皆さん、なぜ国とか、市町村がこんなに大きな借金を抱えているのだろうと不思議に思われるかもしれませんが、多くの事業が借金に頼っている。その原因もわかっていただきたいのですが、例えばどうしても新しい小学校が必要だという状況になったとします。普通なら、小学校を建てるまでお金を貯金して、建てるだけの貯金が貯まったときに小学校を建てればいいわけなのですけれども、そんなことをしておりますと、その間にいっぱいになってしまった生徒の皆さんが大変な迷惑をされるわけですから、そういうときにはまず先に借金をして、新しい小学校を造ってしまって、その後、そのお金を返していくということの方が、はるかに小学生の皆さんや保護者の皆さんにとってもいいことなのです。ですから、どうしても必要な事業につきましては、できるだけ早く皆さんに便宜や恩恵を受けていただくために借金をするというようになっているのです。政治とか、行政は、どちらかという、先に造って後で返していくというやり方が非常に多いと考えていただきたいと思います。

そういうことで、彦根市におきましては非常に大きな借金があるわけでございますけれども、このように借金がありますと、どうしても借金の元金の返済と利息の支払いにたくさんのお金を使うようになっていきますので、先ほどからお話が出ていますように、例えば野球場を造ってほしいというようなお話とか、稲枝駅を早く改築してほしいとか、いろいろなお要望があるわけですが、なかなかそちらの方に回すだけのお金がなくなってしまうわけですね。そういうことで、皆さんにいろいろとご迷惑をかけるということになるわけですね。

1日も早く借金を減らさないといけないわけですが、実は彦根市では、下水道事業が70%を超えてはおりますけれども、まだたくさんのお事業が残っておりまして、まだまだ借金を増やしていかないと、「1日も早く下水道を造ってほしい」という方々が迷惑をされるわけですから、今後まだまだ借金が増える可能性もあるということなのです。またその返済に苦しまなければならないということなのです。

それでは、どのようにこの苦しい状態に耐えていくかということですが、まず第一は、市の出費をできるだけ減らすということです。むだなことにお金を使わないということです。それともう一つは人件費、職員に払う給料のことですけれども、これも大きな部分を占めておりますので、職員の数を減らしていくということもしなければなりません。それともう一つは、市の収入を増やすということを考えなければいけないのです。もちろん税金とか、いろいろ皆さんからいただいているわけですが、市を活性化して、皆さんの収入を増やした上で税金も増やしていただくということを考えなければいけないし、例えば国宝・彦根城築城400年祭のときでも、いろいろと皆さんのご協力を得て、収支だけを考えても、2億円ぐらいは彦根市として収入があったわけですね。今後はそういうようなことをしながら、何とかして借金が減るように努力していきたいと思っております。

つい最近、彦根市議会におかれましても、議員が28人のところを24人に減らされました。これにつきましても非常に大きな歳出を減らす効果がございいますので、そういう点も皆さんにお考えいただきたいと思っております。

以上、いろいろ申し上げましたけれども、今後も何とか彦根市の財政状態をよくするように頑張っていきたいと思っております。

以上です。

4番（大久保江美さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第2グループ議長（田中千晶さん） 3番矢野友莉さん。3番。

3番（矢野友莉さん） 私は、スポーツ施設について提案します。

私の学校では、税金の勉強をしました。税金の勉強をして、国の借金がとても多いことがわかったので、彦根市は借金をしているのか、とても気になりました。

私たちは彦根市にスポーツ施設を造ってほしいと思っているのですが、もし彦根市が借金をしているのなら、もっと借金が増えて負担がかかると思うので、とても心配です。もし借金をしていないとしたら、スポーツ施設を造ってほしいです。

スポーツ施設は、子どもからお年寄りの人たちまでたくさんの人たちが便利に利用できるものを造ってほしいです。例えば私は、温水プールやボーリング場など、手軽にできるスポーツ施設があればいいと思います。そうすれば、彦根市の人たちが楽しく活動できると思いました。

だから、彦根市にだれでも利用できるスポーツ施設を造ることを提案します。

第2グループ議長（田中千晶さん） 副市長。

副市長（松田一義さん） 彦根市の借金につきましては、今、市長が一部答弁しておりますが、市の平成19年度末の借金の額は、学校や道路、ごみ処理や福祉などを扱っています会計を一般会計といいますが、その一般会計で約374億円あります。彦根市の平成19年度の一般会計の収入は約356億円ですので、1年間の収入をやや上回る額の借金が残っています。また、市立病院や下水道事業など、これらは別の会計ですが、これらを含めました彦根市全体の借金は約1,170億円となっています。

彦根市がどれだけ借金を返しているのかというのを、県内の他市と比べるときには、実質公債費比率という率で比べることになります。この実質公債費比率といいますが、彦根市の予算規模に対しまして毎年市が返済している借金の額の比率ということですが、実はこの率が彦根市は県内13市のうちで最も高くなっています。つまり借金の返済の負担が最も大きいということです。

それでは、なぜ借金をするかということですが、矢野さんの質問のスポーツ施設や学校、道路など、一度に多くの費用がかかる施設を造る場合、その年度における税金だけで造ろうとしますと、その年度はほかの事業がほとんどできないということになるかもしれません。そこで国は、地方債制度といひまして、スポーツ施設などの公共施設を造る場合には、

市町村が国や銀行などから借金をして、長期にわたって返済することを認めている制度があります。これはスポーツ施設など、今後、何十年間にもわたって皆さんが利用されるものですから、借金をして、将来にわたってその施設を利用される市民の方にも少しずつ負担をしていただく方が、今利用されている皆さんと何十年後に利用される皆さんの負担が公平になるということからです。

現在、市内には滋賀県のスポーツ施設もありますが、彦根市のスポーツ施設といたしましては、市民体育センターや金亀球場、荒神山球場等がありますが、矢野さんのご質問の新たなスポーツ施設を造るためには、新たな借金をする必要があります。いろいろな事業をしなければならない中で、彦根市の税金など、これからの収入を考え、これ以上、会計に大きな負担がかからないかどうかを慎重に判断して、するかしないかを決めていかなければなりません。

先ほど説明しましたように、彦根市が県内の市で最も実質公債費比率が高い、つまり借金を返済している率が最も高いという厳しい財政状況から考えますと、新たなスポーツ施設を造ることは、今は大変難しいのではないかと考えています。

以上です。

3番（矢野友莉さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第2グループ議長（田中千晶さん） 14番辻裕人さん。14番。

14番（辻 裕人さん） 僕は、彦根全体が、二酸化炭素が少なく、緑あふれるまちにするための提案をします。

以前の彦根は緑があふれ、空気はきれいだったと聞いています。しかし最近、僕の住んでいる稲枝の地域でも、マンションや家などが建ち並び、緑が極端に減ってきています。また、道路が込み合い、排気ガスで空気が汚れてきています。これでは二酸化炭素が増え、人が住む環境にもよくありません。地球の温暖化も進みます。

僕は、二酸化炭素を減らし、美しいまちをつくるため、木や花を植え、緑いっぱいのもちにしたいと思います。そのためには、各家が木や花を植えるようにすること、まちでも公園などに木や花壇をつくることなど、彦根市全体で運動を進めたらどうでしょうか。

彦根市では、二酸化炭素を減らす対策や緑の公園や緑を増やす計画はどのように考えておられますか、質問します。

第2グループ議長（田中千晶さん） 都市建設部長。

都市建設部長（中辻源壽さん） ただいまの辻さんの質問についてでございますけども、二酸化炭素を減らす対策は、先ほど北川綾菜さんや近藤さんにお答えしたような取り組みを行っていますが、辻さんのご提案のように緑を増やすことも、植物が二酸化炭素を吸収することで地球の温暖化が進むのを少しでも食い止めるのに役立つものと思います。

初めに、彦根市の緑の公園についてですが、公園はくつろげる場所であるとともに、まちの環境をよくするための場所ですので、これまで彦根市が造ってきた荒神山公園など、

都市計画で決めた公園には、木や芝生をたくさん植えてきました。現在、計画面積の約80%の公園ができ上がり、現在工事中の鳥居本公園もできるだけたくさん木や芝生を植える計画で取り組んでいます。

次に、彦根市全体の緑を増やす計画は、「彦根市緑の基本計画」がありますが、市民一人ひとりが緑に関心を持っていただき、庭先に1本でも多くの木を植えていただくことをお願いしたいと思います。

辻さんは、二酸化炭素を減らし美しいまちをつくるため、木や花を植え、緑いっぱいのまちにしたいと思うというすばらしいご意見を述べていただきました。彦根市では「美しいひこね創造活動」に取り組んでいて、例えば自主的に草花を植えたり、通勤・通学を自家用車から自転車やバス、電車などに替えるなどしていただくと、その回数に応じて、ひこにゃんをデザインした彦根の地域通貨をお渡しいたしております。現在この活動に約4,000人の市民の皆さんが登録していただいております。今後もより多くの皆さんに身近なところでこうした活動をしていただけるよう推進していきたいと思っております。

14番（辻 裕人さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第2グループ議長（田中千晶さん） 29番道田恭彬さん。29番。

29番（道田恭彬さん） 市長さんの仕事について質問します。

社会の時間に、憲法や税金のこと、国と地方の行政について勉強しました。議会についても勉強しています。知事や市長さんの役割についても少し習いました。そこで、市長さんに次の質問をします。

一つ目は、市長さんは毎日どんな仕事をされていますか。

二つ目は、市長さんのところにはどんな人がやってくるのですか。

三つ目は、1週間に会議が何回あるのですか。また会議にはどんな種類があるのですか。

四つ目に、市長さんは彦根のまちを住みよくするために何か計画をされていますか。

社会の時間には少ししか習っていないので、もう少し市長さんの仕事について知りたいと思いました。よろしくをお願いします。

第2グループ議長（田中千晶さん） 市長。

市長（獅山向洋さん） 市長の仕事についてのご質問にお答えします。

非常に細かくご質問を受けたわけですが、最初に、全般的な市長の仕事というものについてご説明しておきたいと思えます。

市長は、地方自治法という法律によって、いろいろな権限が与えられているわけですが、非常に重要な役割としては、予算編成権、簡単にいいますと、これから1年間どんな仕事をやるかという予算を編成する権限、それから議会のご承認をいただいた上で執行、つまり予算を実行していくわけですが、そのときに予算を執行する権限というものもあるわけです。それともう一つは、市役所の中の職員の人事権、簡単にいえば、だれをどういう部署で働いてもらうかというようなことを決める権限もあるわけです。

このような三つの権限の中で、ご質問の一つ目についてお答えさせていただきますと、どのような仕事をしているかということですが、今申し上げましたように、予算編成とか、予算執行につきまして、特に執行の段階で、どのように決められた予算を実現していくかということについて、担当の部長、課長といろいろと協議して、市長がその方針を決定して、その部・課に対して「このようにしなさい」というような指示をするわけです。この仕事が現実には非常に多いわけです。

それと同時に、彦根市も国や県との関係があるわけですから、国・県との交渉あるいは要望というのも非常にたくさんございます。ですから、例えば東京へ行ったり、大阪へ行ったり、さらには県庁の大津市へ行ったり、そういう仕事も非常にたくさんございます。

それともう一つは、先ほど申し上げましたように、予算の執行というときに、市内の団体の方々と協議をしながら進めていく必要があるわけです。そういう関係から、市内の商工会議所とか、観光協会とか、多くの団体の方々と協議していく必要があるわけです。

そんなことで、私の仕事は、このような多くの会議への出席とか、要望活動とか、団体の皆さんとの面談とかで、イベントとか行事がございますと、そこへ出て行って、市長としてお祝いをしたり、ごあいさつをしたりと、このように非常に幅広い範囲の仕事があるとご理解いただきたいと思います。

それから、二つ目の「どんな人がやってくるのですか」ということですが、これにつきましても先ほどお話ししましたように、いろいろな会議として来ていただく方々が非常に多いわけですが、同時に、中学校の皆さんが全国大会や近畿大会でいい成績をおさめられたとか、いろいろなことがございます。そういうときには、お祝いを言ったり、「さらに頑張ってください」という激励をしたりします。さらに、彦根市には、全国の多くの市あるいは市議会からお客さんがたくさん来られるわけです。そういうときに、そういう方々にお会いして、もちろん相手の市のお話も聞くのですが、同時に彦根市の宣伝も随分しているわけがございます。

それから、三つ目のご質問で、「1週間に会議が何回あるのか。会議にはどんな種類があるのか」ということですが、例えばこの2月1日から7日までの1週間を見ますと、内部の会議、我々はこれを庁内会議と言っているのですが、これが8回ございましたし、外との会議、これは9回ございました。これは必ずしも彦根市内だけではなくて、県に行ったり、近隣の町に行ったりということで、合わせて17回ほど会議はもっております。種類はさまざまございまして、先ほど申し上げましたように、庁外へ行くのは、単に彦根市長は市のことだけをやっているのではなくて、例えば滋賀県市長会というのがございまして、その会議へ出ていったり、それ以外の県内の会議のいろいろな委員を務めたりしていますので、そういうことでも出ていっております。庁内会議は、先ほど申し上げましたように、予算執行そのものについてどのようにやっていくとか、最近問題になっております芹谷ダムの問題などを県とどのように折衝するかとか、そのようなさまざまな種類があるとお考えいただきたいと思います。

それから、四つ目に、彦根のまちを住みよくするために何か計画はあるかということなのですけれども、通常、住みよくするためのものというのは、市の職員の方々が一生懸命やっただけなので、特に問題がない限り、余り市長の方からあれこれと口は出さないわけです。市長が考えるべきことは、先ほどからたびたび質問が出ておりますように、財政の方をどのようにしていくかというような重要な問題でございます。

昨年来いろいろやっておりますのは、国の方からできるだけお金がもらえるように、「歴史まちづくり計画」というものをつくって、このたび、金沢、高山、彦根、萩、亀山、この五つの市が全国で大臣認定を受けたわけでございますが、このような仕事をしたり、近隣の多賀町、甲良町、豊郷町、愛荘町さんと仲よく、お互いに広域的な行政をちゃんとやっていこうというところで、総務省というところが提唱しております定住自立圏構想というものに先行実施団体ということで選ばれましたので、今後1市4町が仲よく広域的なことを考えていこうというようなことをやったり、観光圏というのを国土交通省が提唱しておりますので、この2月20日までに何とか大臣認定を受けられるように申請したいと考えています。これはびわ湖・近江路観光圏協議会というものがございまして、私、彦根市長が会長をしているわけですが、伊香郡から蒲生郡までを一つの観光圏として一緒にやっていこうというようなお話をしているわけです。

このようなことで、最終的に彦根市の活性化をして、財政力をつけて、さらに皆さんの生活が豊かになるように頑張っていきたいと考えているわけです。

以上、いろいろと申し上げましたけれども、市長の仕事としてはこんなことをやっているということをご理解いただきたいと思えます。

29番（道田恭彬さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第2グループ議長（田中千晶さん） 20番中村木乃実さん。20番。

20番（中村木乃実さん） 私は、お年寄りの方の福祉の問題について質問します。

彦根市には、ひとり暮らしのお年寄りの方がたくさんいます。最近、ニュースなどで「お年寄りの孤独死」という言葉をよく耳にするので心配です。そこで、地域の人々とお年寄りの方との交流をして喜んでもらうなど、さまざまな工夫を施せば、孤独死は防げると思えます。

ひとり暮らしのお年寄りの方は何でも知っておられて、一緒に話しているとこちらもうれしくなります。そんな中、お年寄りの方の孤独死が増えているというニュースを聞くと、とても悲しく思います。

今現在、市長さんたちは、お年寄りの方々が安全に安心して暮らせるまちづくりについて何か工夫をされていることはありますか。教えてください。

第2グループ議長（田中千晶さん） 福祉保健部長。

福祉保健部長（江畑 隆さん） 中村さんが心配されるように、お年寄りの孤独死の問題は本当に心が痛む悲しいことです。このようなことが起こらないために、市役所では

いろいろな事業をしております。

例えば、ひとり暮らしのお年寄りで体のぐあいがよくない人の家には、必要なときに助けを求められることができる装置を取りつけています。この事業は「緊急通報システム運営事業」といいます。この装置は、お年寄りがボタンを押せば近所の人が駆けつけてくれたり、必要なときには救急車を呼ぶこともできるものです。また、食事をつくることが大変なお年寄りの方のためには、「配食サービス事業」があります。この事業は、お弁当屋さんにお昼にお弁当を配達してもらい、お年寄りが毎日お元気で暮らしているか、確認してもらうものです。

それから、彦根市にはやすらぎふれあいの館という施設があります。これは宅老所とも呼ばれるもので、ボランティアの人たちが中心になって運営している施設です。お年寄りの人たちが集まって、ゲームやおしゃべりをして楽しんでおられます。まだ市内に8カ所しかありませんが、これからももっと増やしていきたいと考えています。また、地域包括支援センターという施設から、保健師や社会福祉士などがお年寄りのお宅を訪問し、不安に思っていることや困っていることなど、いろいろなお話をお伺いして、安心して暮らしていただけるようにしています。

そのほか、地震や台風などの災害が起こったときに、自分で避難することができないお年寄りを助けるために、「災害時要援護者支援制度」という制度をつくり、地域の中で支援が受けられるようにしています。

また、地域の民生委員さんやご近所の皆さんにお願いして、お年寄りの方の様子を見ていただいたり、話し相手になっていただいたりしています。皆さんの学校でも、地域のお年寄りをお招きして、昔の出来事を聞いたり、遊びのことを教えていただいたりして、ふれあいを深めておられるのではないのでしょうか。お年寄りに安心して暮らしていただけるようにするためには、地域の皆さんで力を合わせて見守っていくことが大切だと考えています。

お年寄りのことを心配される中村さんは、とても優しい心を持っておられると思います。ご近所に困っておられるお年寄りがおられたら、声をかけてあげたり、話し相手になってあげたりしてください。皆さんの温かい気持ちが、お年寄りはもちろん、地域の人たちが安心して暮らせるまちづくりの基礎になると思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

20番(中村木乃実さん) ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。

第2グループ議長(田中千晶さん) しばらくの間、休憩します。

午前10時57分休憩

午前11時05分再開

第3グループ議長(田邊 聖さん) 議長を交替しました。城西小学校の田邊聖です。

よろしく申し上げます。

休憩の前に続いて、会議を開きます。

第3グループの順番は、7番山下陽生さん、21番辻大輝さん、16番北村健太さん、17番横田拓也さん、28番山田萌さん、8番北川尚美さん、19番西川直志さん、9番細居万由佳さん、27番田中千晶さん、25番宮崎萌さんの順とし、順番に第2演壇まで来て質問をしてください。

7番山下陽生さん。7番。

7番（山下陽生さん） 僕は、彦根市のインフルエンザ対策について質問します。

最近ニュースを見ると、インフルエンザが流行しているそうです。僕たちの学校では、うがいや手洗いをしたり、消毒用ぞうきんで机をふいたりしています。彦根市ではどのようなインフルエンザ対策をしておられるのでしょうか。

また、テレビでは新型の鳥インフルエンザが話題になっています。鳥インフルエンザが人間にかかるようになると大変危険だと聞いています。新型インフルエンザに対するワクチンも開発されているそうですが、彦根市では新型インフルエンザに対してどのような対策をしておられるのでしょうか。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 市長。

市長（獅山向洋さん） インフルエンザ対策についてのご質問にお答えいたします。

今はやっているインフルエンザでございますけれども、これにつきましては、皆さんも小学校の方で先生方からいろいろと聞いておられると思います。やはりまず第一にうがい、手洗い、これを日常的に行うこと。それとマスクをすること。さらに、せき、くしゃみをするときには、ティッシュなどで口・鼻を押さえるなど、人にうつさないように注意することが非常に大切であると思っております。皆さんができるだけ気持ちよく手を洗っていただけるように、私どもの方も考えていきたいと思っております。

さらに、予防接種は一定の効果がございますので、できる限り予防接種を受けていただくように勧めておまして、特にお年寄りには予防接種の費用の一部を市が負担している状況でございます。

とにかく、まだまだインフルエンザがはやっておりますので、どうか皆さんにおかれましても、手洗い、うがい、マスク、こういうことにしっかりと取り組んでいただきたいと思っております。

次に、新型インフルエンザの問題でございます。

現在、東南アジアや中国で、特に鳥から人へうつる新しいインフルエンザが発生しているわけですが、鳥から人へうつるだけで、人から人にはまだ感染しておりません。しかしいずれ人から人へうつるのではないかと。そういうときには、人には免疫がありませんので、爆発的に感染者が増えるのではないかと。これをパンデミックといいますけれども、パンデミックの状態が起こるのではないかとということが非常に心配されております。

そういうことで、国とか、県において、行動計画、つまりあらかじめこういう場合には

こういうようにしようというような計画を立てておりますが、彦根市におきましても、県下では1番だと思っておりますが、既に「新型インフルエンザ対策行動計画」というものをつくっております。それと同時に、ただ単に行動計画をつくるだけではだめですので、これを皆さんにご理解いただくために、教育委員会の方でも、先生方がいろいろと考え、また勉強をしていただいておりますし、市立病院においても、過日、患者が発生したときに備えて訓練もしていただきました。

さらに、彦根市のホームページを見ていただきたいのですが、ここには新型インフルエンザ情報という専用のサイトを設けておりますので、ぜひともまた見ていただきたいと思っております。

それと、昨年12月議会におきましても、防護衣服とか、タミフルとかの薬の備蓄も非常に重要でございますので、そのような予算を提案いたしまして、議会において、そういう備蓄についても考えていただいたところでございます。

そういうことで、今後いろいろと頑張ってもらいたい、あるいは準備してもらいたい。しかも皆さんに一層理解を深めていただきますように、出前講座、つまり担当の職員が皆さんのところへ、地域に出向いていってご説明するというようなこともやっておりますので、どうかご利用くださいますようによろしく願いいたします。

以上です。

7番(山下陽生さん) ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第3グループ議長(田邊 聖さん) 21番辻大輝さん。21番。

21番(辻 大輝さん) 中学校給食について提案します。

僕は学校で、毎日とてもおいしい給食を食べています。しかし小さいころは野菜が大嫌いでした。高学年になって、家庭科で食べ物の栄養のことを勉強しました。僕たちが健康を保ち、元気に生活するには、栄養素が必要なのだと知りました。エネルギーのもとになる炭水化物や脂肪、体の調子を整える野菜や果物、体をつくるもとになるたんぱく質や無機質、それぞれをバランスよく食べることが大切なのです。給食は栄養士さんが僕たちのためにバランスのよい献立を考えてくれたメニューです。苦手だった野菜も食べられるようになり、毎日の給食がとても楽しみです。

しかし、彦根市では、中学校に行けば小学校のように給食がなく、お弁当を持っていかなければなりません。僕が中学生の間に中学校給食にしてください。お願いします。

第3グループ議長(田邊 聖さん) 市長。

市長(獅山向洋さん) 中学校給食実施についてのご質問にお答えいたします。

ただいまご質問にもございましたように、中学校給食につきましては、私自身は必要であると考えております。そこで私も、議会の方には、ぜひ中学校給食をしたいということで提案したわけでございますが、いろいろな問題がございまして、残念ながら、現状においては実施するには至っておりません。

この理由についてちょっと申し上げておきますと、まず一つは、給食の施設を造るのにどのようなやり方をするかということについて問題がありました。それともう一つは、規模的に、センターを造るとしても、量的に少ないので、スケールメリットというのですが、簡単に言ったら、大きな規模でやればそれなりに単価が安くなるということなのですが、そういう点で問題があるということ。それともう一つは、中学校給食よりももっと優先順位が早いものがあるのではないかというような理由で、議会の方のご承認はいただけなかったということでございます。

それで、この点をいろいろと解消するために検討しておりまして、例えば規模の問題でございませけれども、現在、多賀町、甲良町、豊郷町、愛荘町というような範囲の皆さんと、一緒に中学校給食をやりませんか。そうすれば規模が大きくなって、一定のメリットが出てくるのではないかというようなことも協議はしているわけでございます。先ほどからも少し出ておりましたけれども、これは地産地消ということにも関連しておりまして、定住自立圏構想という中でいろいろと検討していきたいと思っております。

それから、先ほどからいろいろ出ておりますように、財政難という問題がございまして、その中で何をまずやるかということが非常に重要でございます。そういう考えの中で、私は、中学校給食は優先順位が高いと思っておりますけれども、いろいろなご意見もあるわけございまして、今後そういうことについてご理解いただけるように努力していきたいと思っております。

また、どのようなやり方、簡単に言うと、彦根市が現実に施設を造って彦根市が運営するのか、彦根市が造って民間の方々に運営していただくのか、民間の方々にすべてをお任せするのか、このようにいろいろな問題もございまして、これについても現在検討しております。

また、議会におかれましては、現在、中学校給食実施のための特別委員会というものをつくっていただきました。この特別委員会の中でも十分議論を尽くして、できるだけ中学校給食が実施できるようにやっていきたいと思っております。

以上、いろいろと申し上げましたけれども、辻さんの言うとおられるように、「僕が中学校にいる間に」とおっしゃっているので、何とかご希望をかなえたいなという気持ちは十分あるわけでございますが、今後とも私も努力してまいりますのでよろしくお願い致します。

21番(辻 大輝さん) ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第3グループ議長(田邊 聖さん) 16番北村健太さん。16番。

16番(北村健太さん) 僕は、彦根の観光について提案します。

彦根には、彦根城などの観光名所がたくさんあります。でも、たくさんあり、いろいろなところがあるので、歩いていくのは少し大変です。そこで、彦根駅などにレンタサイクルのステーションをつくったらどうかと考えました。

僕もよく彦根城に行きますが、さらにほかのところに行こうと思うと、キャッスルロードや四番町スクエアぐらいしか行けません。車で来ても、道が狭かったり、一方通行だったりして通れないこともあります。けれど自転車なら、細かいところも回れるし、彦根のまちは坂も少ないので、観光にぴったりだと思います。何より駐車場が要りませんし、駐輪場も小さくて済みます。エコにもなるし、渋滞も減ると思います。僕が修学旅行で行った奈良県の明日香のように、借りたり返したりできるところが何力所かあると便利です。また、観光客も増えると思います。

だから、彦根駅などにレンタサイクルのステーションをつくることを提案します。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 産業部長。

産業部長（竹内 彰さん） 北村さんの提案についてお答えします。

彦根には、彦根城を初め、多くの観光施設がありますが、彦根に来られた方々にレンタサイクルを利用して街なかを回っていただければ、ゆっくりと彦根を見ることができますし、市民の皆さんとの交流の機会が増えることも期待でき、さらに環境にもよいこと、また彦根市は坂がほとんどないことから、北村さんと同じように、最適な交通手段であると考えます。

現在、彦根市には、JR彦根駅を初め、数軒のレンタサイクル店があります。また一部のホテルでは、宿泊された方に無料で自転車の貸し出しをされていることもあって、利用や問い合わせも多いと聞いております。少し変わった自転車では、滋賀県では彦根市だけですが、今、街なかをペロタクシーという三輪式の自転車タクシーが走っていて、ゆっくり彦根のまちが楽しめる大変喜んでいただいています。さらに近江鉄道では、時間帯によっては電車に自転車を乗せられるサイクルトレインがありますので、街なかだけではなく、少し郊外へ出かけることも、彦根や近くのまちの新たな魅力発見になって楽しいのではないかと思います。

北村さんからのレンタサイクルのステーションをつくってはどうかとのご提案につきましては、よいアイデアだと考えます。彦根市としてもレンタサイクルによる観光をもっと進めたいと考えているところであり、彦根市だけではなく、近隣の市や町の広い範囲で実施できないか、事業者の皆さんと相談、協力しながら取り組んでいきたいと思っています。

これからも、観光客に対していろんなサービスを提供し、彦根市のイメージアップを図りたいと考えていますので、皆さんもいろんなアイデアを提案してください。

以上です。

16番（北村健太さん） ありがとうございます。

これで僕の提案を終わります。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 17番横田拓也さん。17番。

17番（横田拓也さん） 僕は、彦根市のリサイクルについて質問します。

僕たちは、学校で牛乳パックのリサイクルをしたり、家庭でペットボトルのリサイクルをしたりしています。

牛乳パックは上質の紙だと聞いたことがあります。またこのパックを使って、別の紙につくり替えられると聞いています。また最近では、ペットボトルもさまざまなものにリサイクルされているということを知っています。その一つがボールペンです。ほかにもいろいろなものにリサイクルされていることと思います。でも、その工場まではわかりません。

家庭から僕たちが出したペットボトルは、彦根市で集められて、どのような方法で、どんなものにつくり替えられているか、知りたいです。ペットボトルを初めとするリサイクルについて質問します。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 市民環境部長。

市民環境部長（東 幸子さん） お答えいたします。

横田さんが、学校で牛乳パックを集めたり、家庭でペットボトルを分けて出していたいたり、リサイクルのために頑張ってくださいていることをとてもうれしく思います。

私たちの生活で、使い終わったものをごみとして捨ててしまうのではなく、ごみとして燃やすものや埋め立てるもの、資源として役立つものにしっかりと分け、資源として役立つものはリサイクルし、新しいものに生まれ変わらせることはとても大切です。

彦根市では、ごみを八つの種類に分けて出していただいています。このうちペットボトルや缶・金属類、びん類などが資源としてリサイクルされ、新しいものに生まれ変わっています。

では、ペットボトルがどのようにリサイクルされるのかといいますと、皆さんの家庭から集められたペットボトルは、彦根市の清掃センターでキャップを取り除いたり、車で運びやすいように機械で処理をします。その後、トラックでリサイクル工場に運ばれます。この工場では、ペットボトルを細かく砕いて、きれいに洗い、新しいものをつくる時の材料がつくられ、この材料を使って新しい品物が生まれます。ペットボトルからは、新しいペットボトルがつけられたり、皆さんが着ている洋服になったり、じゅうたんやカーテンに生まれ変わっています。そのほかにも、学校の体育で使うマットやマラソンなどで胸につけるゼッケン、勉強で使う下敷きや、横田さんがおっしゃったボールペンなどがつくられます。

ペットボトル以外では、空き缶からは新しいスチール缶やアルミ缶がつけられたり、建物を建てる時にコンクリートの中に使われる鉄筋や窓のサッシがつけられます。またガラスびんからは、新しいびんがつけられたり、道路に使われるアスファルトの材料の一部として使われています。このほかにも、使い終わったてんぷら油が自動車の燃料となったり、洋服などを入れるプラスチックのケースなどから花を植えるプランターがつけられます。

ペットボトルなど資源として役立つものがうまくリサイクルされるために、私たち一人ひとりがごみの分け方や出し方のルールをしっかりと守り、リサイクルされてつけられた製品を進んで使うことが大切です。みんなで力を合わせて、もっともっとリサイクルの輪が広がるように頑張っていきたいと思います。

以上です。

17番（横田拓也さん） ありがとうございます。

これで僕の質問を終わります。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 28番山田萌さん。28番。

28番（山田 萌さん） 僕は、彦根の観光について提案します。

彦根には、観光客が毎日来ています。だけど、もっと観光客を増やせばいいと思います。そのために、彦根城周辺全体をキャッスルロードのようにきれいな町並みにすればいいと思います。普段、彦根城周辺を通るときに、いつも観光客が少ないなと思っていました。せっかく国宝彦根城や琵琶湖があるのにもったいないなと思いました。

そこで、観光客を増やすために、彦根城周辺全体を江戸時代の町並みにすればいいと思います。それに、侍や商人の格好をした人がいれば、観光客が写真を撮ったりするなど、喜んでもらえると思います。あと、馬を引いた人もいて、観光客を馬に乗せてあげるなど、思い出がいっぱいできて、「また行きたいなあ」と思ってもらえれば観光客は増えると思います。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 産業部長。

産業部長（竹内 彰さん） 山田さんの提案についてお答えします。

彦根市では、平成19年、今から2年前になりますが、国宝・彦根城築城400年祭が開催されました。開催期間中、全国から約243万人の方が彦根に来られました。また彦根城には、約76万人の観光客に来ていただきました。特に、山田さんもファンになっていただいていると思いますが、ゆるキャラとして皆さんに愛されているひこにゃんが日本中の人気者になったことから、ひこにゃんが住んでいるまちとして、多くの観光客に彦根を訪れていただきました。おかげさまで彦根のイメージアップにつながり、大変喜んでいきます。現在、井伊直弼と開国150年祭を来年3月まで開催しています。

これら400年祭や150年祭を機会に、彦根にいろいろな市民皆さんの新しい観光への取り組みがありました。山田さんからご提案のありました時代衣装をつけた人のサービスについては、「ひこね盛り上げ隊」という市民グループが、主に観光シーズンの日曜日に、侍の姿やよろいを着て、観光客と写真を撮るなどのサービスをされていますし、彦根城の堀をめぐる屋形船や三輪式自転車ペロタクシーについてはほぼ毎日運行し、観光客のサービスに努めていただいております。また、「力車」という名前の仏壇技術を活かした自転車タクシーも現在テスト中です。

キャッスルロードのようなきれいな江戸時代の町並みをつくってはどうかとのご提案ですが、彦根市としてもできるだけ昔の建物や史跡を復元し、観光に活用していきたいと考えています。これからも彦根の歴史を大切にしながら、たくさん人が来てくれる元気なまちづくりを、市民皆さんと協力しながら進めていきたいと考えています。

以上です。

28番（山田 萌さん） ありがとうございます。

これで僕の提案を終わります。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 8番北川尚美さん。8番。

8番（北川尚美さん） 私は、和菓子のコンテストについて提案します。

井伊直弼公は、昔、お茶について熱心に勉強していました。そのことから、彦根をテーマにした和菓子のデザインや内容を全国から募集して、その中から何点か選ばれたものを、市内の和菓子店の方々につくってもらいます。その作品を、期間限定として、彦根に来られた観光客の人に試食してもらい、投票してもらいます。その中で一番人気のあった作品を彦根の名物として売り出したらどうかと思います。そうすると、テレビなどで取り上げられて、国宝・彦根城築城400年祭のときのように、たくさんの人に来てもらえるのではないかと思います。

だから私は、今回、井伊直弼と開国150年祭を機会に、和菓子コンテストを開いてはどうかと提案します。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 産業部長。

産業部長（竹内 彰さん） 北川さんのご意見にお答えします。

彦根は歴史のあるまちだからでしょうか。さまざまな和菓子がつくられ、販売されています。例えば、見た目の美しさや素朴さを活かしたもの、その場の雰囲気や景色などもてなしに合わせたもの、夏に涼しさを感じさせるなど季節に合ったもの、昔からのつくり方が受け継がれている伝統のあるもの、地元の材料を活かしたもの、また地名をつけたものや縁起物などがあり、さらに、きめ細かな形や色で表現されたものや、伝統にこだわらずお菓子の職人さんがアイデアを出してつくったものなど、食べてしまうのが惜しいと思われるお菓子もたくさんあります。お茶も、抹茶だけではなく、紅茶や緑茶などたくさんの種類がありますので、それぞれのお茶に合ったお菓子も考えられて、だんだん種類も増えてきているのではないのでしょうか。

彦根市内には、和菓子をつくって売っているお店は15軒あります。それぞれのお店では、ほかのお店にないお菓子もつくり、お土産品としても売っておられます。また市内では、物産展やにぎわい市という行事の中で、いろいろなお菓子を市民や観光客の方に見ていただいたり、買っていただいたりしています。

彦根ではお菓子のコンテストはしていませんが、全国レベルで開かれている大会には出品されています。例えば、お菓子の祭りとして、「全国菓子大博覧会」が開かれています。去年の春には姫路市で、またその5年前、平成15年ですが、熊本市で開かれました。彦根市内のお菓子屋さんの組合である滋賀県菓子工業組合彦根支部の会員の方も参加されていますが、評判もよく、よい成績をおさめられています。

コンテストはお菓子をつくる人の励みになりますし、市民の皆さんや観光客へのPRも期待できますことから、北川さんのご意見をこの組合の役員さんにもお伝えして、井伊直弼と開国150年祭の事業の中ででもできないものか、また先々において発表会や宣伝、コンテストを開かれ、1人でも多くの人によさを知っていただければどうかといったこと

を呼びかけていきたいと思います。また、市役所としましても、発表会や宣伝、コンテスト、特産品づくりの取り組みに、協力や応援をしていけたらいいなと考えています。

以上です。

8番（北川尚美さん） ありがとうございます。

これで私の提案を終わります。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 19番西川直志さん。19番。

19番（西川直志さん） 僕は、稲枝にもバス停をたくさんつくって、バスの運行を増やすことを提案します。

僕たちの住む稲枝には、バス停が少ししかなく、バスが走っていない町もあります。そして前はバス停があったのに、今はなくなってしまい、おばあちゃんが遠くへ行くときも自転車で行かなくてはならなく、危なくてとても大変そうです。車に乗れないお年寄りも、バスがあったら遠くに出かけられると思います。

また、個人個人が自動車に乗るよりもバスに乗って行動する方が、地球温暖化への影響も少なくなると思います。今、世界中で地球温暖化が問題になっていて、「地球温暖化ストップを琵琶湖から」と知事も言っておられるので、彦根でもそうした取り組みができたらと思います。

だから、バス停をたくさんつくって、バスの運行を増やしてほしいと思います。彦根市の考えを聞かせてください。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 都市建設部長。

都市建設部長（中辻源壽さん） 西川さんの稲枝にバス停をたくさんつくり、運行を増やしてほしいというご意見にお答えしたいと思います。

現在の彦根市の路線バスは、乗る人が少ないため、バスを運転するのに必要な費用を皆さんの税金で補って動かしております。2、3年前には、稲枝駅から市立病院までの路線バスがありましたが、乗る人がほとんどいないバスに多くの税金を使うことはむだになるということから、運行を取りやめております。このため、バス停がなくなってしまったところもあると思います。

現在、稲枝地区には、稲枝循環線という路線バスが走っていますが、今年の10月からは、バスが通っていない地域に「愛のりタクシー」を試験的に運行しています。この愛のりタクシーは、バスと同じように、運行する路線や時刻表が決められており、乗りたい人はまず登録をしていただき、乗り降りする停留所の名前を電話で予約していただくと、その時刻にタクシーが停留所に迎えに来て目的地まで運んでくれるものです。

西川さんが言われるように、電車やバス、タクシーなどをたくさんの方が利用することは、交通事故や交通渋滞を少なくしたり、地球温暖化の原因である二酸化炭素を減らすのに大きな効果があると思います。

彦根市では、昨年、市民の皆さんがバスなどの公共交通機関についてどう思っているかなどのアンケート調査を行いました。またバスのアイデアコンクールなどを開催し、彦根

市公共交通活性化協議会というところで、少しでもバスなどの利用客が増える対策を考えています。このほど、この協議会で、「彦根市地域公共交通総合連携計画」、少し難しいのですけれども、こういった計画の素案をつくりました。今、インターネットで計画案を公表いたしまして、皆さんからのご意見を求めているところでございます。西川さんも、どうしたら多くの方がバスを利用してくれるようになるのか、一度考えてみていただきたいと思えます。

19番（西川直志さん） ありがとうございます。

これで僕の提案を終わります。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 9番細居万由佳さん。9番。

9番（細居万由佳さん） 彦根城を世界遺産にする運動をしているかということを経験します。

理由は、家族と彦根城のことについて話していて、世界遺産にしたいという意見が出て、私もそう思いました。私は彦根城のすぐ近くに住んでいて、お城の中に入ったこともあります。近くにある彦根城が世界遺産になったらうれしいという家族みんなの願いもあります。それに、彦根城はひこにゃんで人気になっています。ひこにゃんを日本だけではなく世界の人に知ってもらえたら、彦根城のこともわかってもらえます。彦根城のすぐ近くに住んでいる人も、世界の人に彦根城のことを知ってもらえたらうれしいと思えます。そして彦根城が世界遺産になるかもしれません。

だから私は、彦根城を世界遺産にする運動をしているかということについて質問します。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 市長。

市長（獅山向洋さん） 彦根城を世界遺産にとのご質問にお答えします。

彦根城を世界遺産にすることについては、まず世界文化遺産の暫定リストに登録してもらおうということが大切なのです。しかし彦根城は随分早く、平成4年に世界遺産の暫定リストに登録されたのでございます。平成4年というと、皆さんが生まれたころかな。随分年がたっているわけです。それ以降、いろいろと運動はしているわけですが、私が市長になりましたからは、さらに一生懸命頑張っているわけでございます。

いろいろと方法を考えたのですが、その幾つかの方法をお話したいと思えます。

まず、平成4年に暫定リストに載せられたときには、あくまで彦根城の城郭といいますが、お城の部分だけについて暫定リストに載せられたわけです。しかしその後、世界中で世界文化遺産がたくさん登録されまして、だんだん条件が厳しくなっているわけです。そういうことで、彦根市といたしましても、ただ単に彦根城の城郭だけではなくて、城下町そのものを世界文化遺産に考えてもらえないだろうかということで、方向を少しずつ変えてきつつあります。

それともう一つの方法は、国宝4城というのがあるのです。それは既に世界文化遺産に登録されている姫路城、暫定リストに載っている彦根城、松本城、犬山城と四つがあるわけです。姫路城が既に登録されていますので、同種の遺産を登録するというのは現在では

非常に難しくなってきました。そういうことで、国宝4城という形で広げてもらって、彦根城も、松本城も、犬山城も世界遺産にしてもらえないだろうかという考え方が出てきておりました。現在、彦根市と松本市と犬山市の3市でいろいろと研究をしております。残念ながら、姫路市は「うちはまだ世界遺産に登録されているのだから」ということで余り積極的ではないのですけれども、それはそれとして、何とかそのように広げてもらうことで世界文化遺産に登録できないだろうかという努力もしております。

これを管轄しているのが文部科学省の中の文化庁なのですけれども、文化庁も一昨年ごろから、「どんな準備をしているのか、ちゃんと報告してくれ」というようなことをおっしゃってまして、既に一昨年にはそういう報告書を出しております。「彦根城と城下町 大名文化の華ひらく近世城郭都市」というタイトルで、文化庁の方に報告しております。今年も既に文化庁の方から報告に来てくれということで、担当の職員が行っておりますし、実は明日、私自身が文化庁へ行って、いろいろお願いしてこようと思っているわけです。

そういうことで、私たちの誇りである彦根城が世界文化遺産に登録されるということは大変なことでございますし、観光客もたくさん来てくださるようになると思っております。1日も早く登録してもらえるように、一生懸命取り組んでまいります。どうか細居さんも大いに期待していただきたいと思っておりますし、また応援もよろしくお願いいたします。

9番（細居万由佳さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 27番田中千晶さん。27番。

27番（田中千晶さん） 私は、「ひこにゃんチラシ」をつくって、観光に役立つようにすることを提案します。

私たちの彦根市は、国宝彦根城を持つ城下町です。国宝の城というのは全国でも四つしかありません。そんな素晴らしいものがあるというのは、私たちの誇りです。でも、春やお城まつり以外では観光客が余り多くありません。もっとたくさんの人に彦根に来てもらって、彦根を活気のあるまちにしていきたいと思っております。

そこで、全国的に有名になったひこにゃんをもっと宣伝して、彦根のことをよく知ってもらうようにしたらどうかと考えました。私が考える「ひこにゃんチラシ」では、ひこにゃんの趣味や好物、特技などを紹介します。それを見た人はひこにゃんのことをもっと詳しく知りたいと思い、ひこにゃんへの関心が高くなります。ひこにゃんの人気が高くなれば、彦根に見に来る人が多くなると思っております。観光客が増えると彦根のまちがにぎやかになり、活気が出てくると思っております。

なので、「ひこにゃんチラシ」をつくることを提案します。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 企画振興部長。

企画振興部長（中嶋 修さん） 田中さんの質問にありましたように、彦根市には国宝彦根城という素晴らしい観光資源があります。皆さんがよく知っているように、ひこに

やんの住所は彦根城になっています。このため、お城を見るためだけではなく、ひこにゃんに会うために彦根にやってくる人もたくさんいます。参考に、国宝・彦根城築城400年祭が始まる前の5年間の彦根城の入場者を申し上げますと、平均で約45万人でしたが、国宝・彦根城築城400年祭を開催した平成19年は約88万人、井伊直弼と開国150年祭を始めました昨年1年間の入場者は約65万人になっています。また、新聞記事を読んだ人もあると思いますけれども、今年はひこにゃんあてに年賀状が全国から8,564通も届きました。

田中さんから、このように全国的にも有名になってきたひこにゃんをもっと知ってもらうために、ひこにゃんの趣味や好物、特技などを書いたひこにゃんのチラシをつくってはどうかという提案をいただきました。彦根市ではこれまで、JRの駅や旅行会社に配る井伊直弼と開国150年祭のチラシや季節ごとに配るパンフレットにひこにゃんを載せています。また、井伊直弼と開国150年祭のホームページでも、ひこにゃんの趣味が散歩であることや、仕事は彦根市と井伊直弼と開国150年祭のPRであるといったこと、愛称は全国からの応募で決定したことなど、ひこにゃんのプロフィールやスケジュールを紹介しています。

ホームページで書かれているプロフィールは、ひこにゃんのデザインをされた方との話し合いによって認められた内容でして、田中さんの提案にあった特技や好物については決めないことになっています。

こうしたことから、田中さんの提案どおりすることは難しいですが、これからつくる彦根城や彦根のイベントをPRするためのチラシやパンフレットに、ホームページで紹介しているひこにゃんの情報を載せていくことを考えていきたいと思います。

以上です。

27番(田中千晶さん) ありがとうございます。

これで私の提案を終わります。

第3グループ議長(田邊 聖さん) 25番宮崎萌さん。25番。

25番(宮崎 萌さん) 私は、彦根市の図書館の駐車場と周辺道路について質問します。

私は本が大好きで、図書館をよく利用します。私が休日に図書館へ家の乗用車で行ったときのことで、まだ開館して余り時間がたっていないのに、駐車場がほぼ満車といっても過言ではない状態でした。休日だから人が多いのかなと思いましたが、車をとめている人の中には、すぐそばの川に釣りをしにきた人もいたようでした。

また、図書館周辺の道路の中には、幅が狭い道路もあれば、交通量がとても多い道路もあります。幅が狭い道路は、歩行者や自転車がいたら軽自動車でも通りにくく、交通量が多い道路からの出入りは混雑して時間がかかり、予想以上に不便を感じました。

そこで、これらの問題を踏まえて、図書館の駐車場と周辺道路について彦根市の考えをお尋ねします。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 都市建設部長。

都市建設部長（中辻源壽さん） 宮崎さんのご意見についてお答えいたします。

図書館前の駐車場でございますが、この駐車場は図書館の利用者だけではなく、金亀公園を利用される方を対象とした駐車場です。金亀公園のような大きな公園になりますと、公園の中に野球場や図書館などを造ったりすることができますので、図書館は金亀公園内の一つの施設となっています。したがって、駐車場には図書館以外の公園施設を利用される人たちも車をとめられますので、混雑するときがあると思います。もう少し大きな駐車場が必要ではないかと感じていますが、用地の確保が難しく、実現できないのが現実でございます。この駐車場問題を解決するためにも、先ほど三谷さんにお答えしたような新しい図書館が必要だと考えており、その実現に向け努めていきたいと思っております。

次に、図書館周辺の道路が狭く、また、大きい通りに出にくいとのご意見ですが、このことは宮崎さんだけではなく、図書館などを利用される多くの人々が感じているのではないかと思います。

図書館周辺については多くの家があり、多くの人々が生活しておられます。周辺の道路は、図書館や公園を利用される人だけではなく、住んでおられる方が生活道路としても利用されています。これらの道路を広げるには、用地を買ったり、沿線の家を移転しなくてはなりません。それには住民の方のご協力のもとより、たくさんのお金が必要となることから、実施することは非常に困難であります。

図書館への出入り口となる交通量の多い大きい道路は、彦根駅から船町交差点を結ぶ県道彦根停車場線です。この道路はさらに米原市方面へとつながっているため、宮崎さんがおっしゃるとおり、いつも渋滞が多発しており、図書館から出にくくなっております。特に朝夕など通勤時間帯や彦根城への観光シーズンにはさらに大渋滞となり、市民の多くから苦情が寄せられています。

この原因は、交通量が多いこと、船町交差点から護国神社前の交差点までの距離が短く信号の待ち時間が長いこと、また護国神社前から彦根城内に向けては道路が直角に曲がり急に狭くなっていることなどが考えられます。この渋滞を解消するためには、信号の時間調整も考えられますが、交差する道路も交通量が多いことから、できないのが実情であります。根本的に解消するには、通行する車を分散させるため別の道路を造る手法がありますが、城下町としての町並みの景観保存や費用面などを考えると、これも困難であります。

しかしながら、現在、護国神社前の交差点から船町交差点に向けて道路を広げる事業を実施しておりまして、この道路が完成すれば護国神社前の交差点も改善され、交通形態も変わることから信号の調整も可能となり、渋滞が多少緩和されるものと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

25番（宮崎 萌さん） ありがとうございます。

これで私からの質問を終わります。

第3グループ議長（田邊 聖さん） 以上で質問を終了します。

これにて平成21年2月彦根市子ども議会を閉会します。

午前11時58分閉会

会議録署名議員

第1グループ議長	靖	本	理	人	
第2グループ議長	田	中	千	晶	
第3グループ議長	田	邊		翔	
議	員	馬	場	雄	大